

大隅農村社会経済史料(三)：守屋舎人日帳(三) 文 政十三年（天保元年）

秀村，選三

<https://doi.org/10.15017/4403451>

出版情報：経済學研究. 34 (1), pp.63-115, 1968-04-25. 九州大学経済学会
バージョン：
権利関係：



大隅農村社会経済史料(三)

— 守屋舎人日帳(文政十三年(天保元年)) —

秀村選三

解題

前回に続き文政十三年(天保元年、一八三〇)の全文を納める。もっとも三月末より閏三・四月にかけ虫喰・破損が甚しく、判読に苦しんだ箇所も少くないが、最善は尽したつもりである。

この年、守屋舎人は三三才で高山郷の与頭(前回の解題では誤って郷士年寄助としたが、ここに訂正する)であったが、郷士年寄代も勤め、九月には鹿府(鹿兒島)へ出府し、地頭所において郷士年寄助を仰付けられた。したがって本年の記事はその殆んどが高山郷の統治・年貢収納に関するものである。

本年度の主要な記事は前述九月の出府のほか、正月における年頭祝儀、年末より翌年正月にかけての歳暮・年頭祝儀のための出府があり、また藩よりの諸役人の廻動に際し、案内・随従し接衝

に心を配っていることを見出すのである。最も特徴的な記事は十月以降十二月に及ぶ年貢収納に関する記事で、舎人自身が東三ヶ在取納方掛(高山郷においては東三ヶ在と西四ヶ在に分けて土地見分・取納・宗門手札改等々をしている)として年貢の取納に心を砕いており、その過程を如実に知ることが出来る。薩摩藩鄉村末端における年貢収取の実情を窺うに足る好史料と思われる。

このほか藩による趣法講の開始や藍作の差留・取締、内之浦における御手網に関する記事などは断片的とは言え、藩政の動向を察することが出来る。郷における利銀方・取除模合なども他の年度の記事と組み合せて今後明らかにすべきものである。波見浦の重家の持船に関する記事は本年も屢々見えており、また唐船改が入部し、波見浦の船を調べていることも合せて重要であろう。

郷村の生活慣行に関する記事は後年に比べて乏しいが、御田踊・弓之事・御吊踊・御灯爐掛(しん)・水神講などが見えている。また守屋家としては舎人の弟十次郎(後の泰造・良兼)に分家させる意志をもって、本年八月より家作用の杉木を伐出したのであるが、此の点に関しては泰造日帳に詳しく録されている。これに限らず一般的に言って、同年代の並行する日帳が存在することは研究上き

わめて重要で当然参照さるべきものであらう。

なお本文の校訂の方針は当初と変らないので、その凡例を参照していただきたいが、次の二項目のみ追加しておく。

一、文字に黒圈・朱圈を付したものは、その文字の右傍に黒圈は・を、朱圈は。を付した。

一、本文中、都合により人名を伏せた場合がある。此の場合は××であらわした(研究上特に必要な場合は知らせることが出来る)。

(本文)

文政十三年庚寅正月元日晴天

一御地頭かり屋に為御祝儀致出候、先例之通惣郷士出仕有之候、出役郷士年寄市来運右衛門殿・与頭宮田氏・拙者・柏原氏・横目児嶋孫八殿・津曲仲右衛門殿・日高新左衛門殿・御地頭横目安庭権左衛門殿ニ而候、仮屋守日高勘左衛門より年酒被差出候、

寅正月二日曇雨天

一。分三貫文 惣掛方取替

(行間書込、朱筆)

* 「寅正月十六日手形ニ而致返済候」

一。四貫文 利良方取替

(行間書込、朱筆)

* 「ク——同断」

一九ツ時分、月番郷士年寄河保龍藏殿に鹿府参上之届申出、市来氏・安庭氏同道ニ而、暮時分古江問屋に致着候、尤大窪郷八・日高勘左衛門・吉田藤兵衛事も罷出候、左候而拙者事□□前田

村之内門鉄右衛門通夫として召列候、
(内村之)

(行間書込、朱筆)

* 「右覚書式通相受取候而、月番郷士年寄衆並我々当番方へ致返納候」

寅正月三日半天

一郷士年寄市来運右衛門殿□□村吉田藤兵衛同道ニ而、早天古江出立、八ツ時分垂水中之俟八十所に致着候得共、出船相調天氣ニ而無之、泊り候事、

一。分三百四十八文

右も古江方垂水中之俣迄。^{○人馬定}雇入賃分として相払候、

寅正月四日雨晴天

一早天丸木船一艘借切、市来氏同舟ニ而、八ツ半時分鹿府問屋へ致着候故、直ニ御殿に致参上、御帳に相付、御三役相廻、御取次衆に着之届として差越候得共、御留主ニ而不掛御目、七ツ半時分問屋へ罷帰候事、

一分百文

右も寅正月三日夜垂水中之俣^①十所に泊り候ニ付、宿礼とメ相払候、

一々七百四十八文

外七百四十八文

但郷士年寄市来運右衛門殿出分

貳百文

但通夫貳人出分

右者垂水中之俣方鹿府迄、丸木船壹艘借切運賃とメ相払候、

寅正月五日雹曇天

一朝五ツ時御取次宇都宮清兵衛殿御宅に市来運右衛門殿同道ニ而差越、諸届物本を差出、直ニ罷帰候事、

大隅農村社会経済史料 (三)

一^④金子拾老兩毫歩二朱 模合出長預り

分^②ニノ八拾毫貫九百文

一分百三十拾三文

右同断

右式行送状壹通相添、四□時二丸御統料方致に持参、御見聞役衆に差出候处、壹刻相扣、金子之儀致格護居候様承、相待居候处、引付被仰付、右二丸内之藏に致持参差出候様承、差越候処御見聞役衆老人、御書役衆貳人、手伝壹人ニ而御受取有之、請取書之儀と追而被仰付段承候ニ付、問屋に罷帰候上、追而受取書相貫、直ニ遣呉候様、問屋野上伝右衛門に相頼置候、尤通夫鉄右衛門召列候事、

一右二丸方直ニ山奉行所に罷出、書役桑原主右衛門□逢取、去春申受木代良上納引付式通□受候而、直ニ矢野氏に差越候处、関山仲二殿被参、内端ニ而相咄、八ツ半時分問屋に罷帰候处、宮下村庄屋吉田藤兵衛参着居候、尤屋上藤次郎と申絵師問屋に被参候事、

寅正月六日曇晴天

一銘酒五盃

代分三百五拾貳文

⑤

一、肴一折

代分三百廿四文

右式行和田家ニ年頭為御祝儀進上、

一、銘酒五盃

代分三百五拾式文

一、肴一折

代分三百廿四文

右式行梅田家ニ右同斷

一、銘酒五盃

代分三百五拾式文

一、肴一折

代分三百廿四文

右式行川上家ニ右同斷、

一、銘酒五盃

代分三百五拾式文

一、肴一折

代分參百廿四文

右式行木上家ニ右同斷

一四ツ半時分御地頭横目安庭權左衛門殿・郡見廻大窪郷八・町役
日高勘左衛門致着船候、

一八ッ後和田家ノ川上家・梅田家・木上家に差越、七ツ半時分問
屋に罷帰候処、今晚問屋ノ賄有之候事、

(行間書込、朱筆)

* 「其元模合出良、五兩丈ニ相及候節も、役々出府之節致持參被
差出^(印)被仰渡置候処、去丑十二月波江野新左衛門^(手カ)先小牧吉藏
ノ預ケ置、当正月五日持參有之候処、右請取之儀ニ付、被申出
候趣相達候、諸向都而上納相成、取払役人方^ノも、右新左衛門
方に請取被相渡置、以後之儀被差出候節も、取払役人方直ニ預
り書被差出筈ニ候、此節之儀も首尾合相濟候間、其通可被相心
得候、新左衛門方に可相達候間、問屋野上伝右衛門方に新左
衛門^ノ右之段可申遣候間、其通可被相心得候、此旨為念申遣
候、以上、

二丸御統料掛藏方目付

重 信 万 兵 衛

閏三月廿三日

高山模合掛

郷士年寄中

与頭中

横目中

右本文之儀も模合掛方に格護有之候、

寅正月七日曇雨天

一 九ツ時分堀内藤兵衛所^る柳田平兵衛所に頼物買入方として差越候、

一 七ツ半時分^る御地頭所に差越、御祝儀申上候、東一郎様并御取次衆・役人衆迄首尾能相済候、尤於御地頭所御賄被下、暮時分罷帰候、左候而便船次第罷帰筈ニ而御取次衆に御暇申上置候、且、郷士年寄市来運右衛門殿・御地頭横目安庭権左衛門殿・郡見廻大窪郷八・町役日高勘左衛門・宮下村庄屋吉田藤兵衛同道^(候九)ニ而^{候九}事、

一 錢沓貫五百文

御地頭所に

但目錄相添、御肴一折・御樽一荷と相記候、鳥目之儀も杉原

紙二枚ニ而包、水引ニ而結候、

肴一折代并銘酒拾盃代として郷士年寄市来運右衛門殿中間ニ而

進上、

一 〆沓貫五百文

御子息様に

但右同断

一 〆六百文

御取次衆に

肴一折・銘酒五盃代と^る右同断、

一 〆三百文

役人衆に

肴一折・銘酒三盃代と^る右同断、

寅正月八日曇天

□^(六)昨日御地頭所役々に御賄被仰付候為御礼、御地頭横目安庭権左衛門殿役座迄被差越、御礼。申上候、

一 御用玉墨壳弘所^る郷士年寄・与頭之間^へ人御用有之、拙者差越候処、掛横目津曲仲右衛門^る玉墨代延訴詔申出候得共、御免無之候間、早々上納為致候様可申付旨承候、

一 書状沓通

右^へ山本彦右衛門^る田司に届物受合候、

寅正月九日曇晴天

一 問屋詰役々之内^へ沓人明日御鳥見方に被罷出候様被仰越候、

一 金地がね

宇都宮休藏殿に

右^へ金着方御頼被置候得共、地金五分無之候而^も、着方不相調段、細工人^る承申候ニ付、相返可申候間、御帰之上御届可被下

旨、野上伝右衛門を承相受取候事、

(行間書込、朱筆)

* 「寅正月十三日朝、十郎太を以宇都宮休藏方に遣候」

一 安庭権左衛門殿・日高勘左衛門殿事、七ツ半時分帰帆之事、

寅正月十日晴天

一 吉田藤兵衛御鳥見方に罷出候処、野廻提銅方勤日数昼飯用被成

下候手形老通相受取罷帰候ニ付、問屋ニ而拙者相受取候事、

(行間書込、朱筆)

* 「此手形寅正月十五日野廻日高曾之進に相渡候」

一 七ツ半時分市来氏・大窪氏・吉田氏古江船に乗込居、暮六ツ

半時分出帆いたし、夜半時分古江問屋に致着候処、瑞光寺大賢

并入部次郎兵衛参居候、尤吉田藤兵衛通夫耆人直ニ相帰候事、

寅正月十一日晴天

一 九ツ時分古江出立ニ而罷帰候処、前田村之辺を夜入候、市来氏

・大窪氏・吉田氏致同道候事

寅正月十二日晴天

一 山本彦右衛門殿々之書付、上田司殿に相届候事

覚

寅正月二日と同月十一日迄

⑩ 日数十日

往来

前田村内村門

鉄右衛門

右に此節年頭為御祝儀鹿府致参上候ニ付、右之もの為通夫召列
候間、先例之通可被申渡候、以上、

与頭

守屋十太郎

寅正月十三日

当番

郡見廻口中

差出

寅正月二日と同月十一日迄

⑩ 日数十日

往来

// 正月三日

一 ⑩ 銀三百四十八文

駄賃

右に古江を出船無之、垂水中之俣迄乗下寄疋雇入賃分として相
払申候、

〃——四日

一〇〇〇〇百文

宿礼

右〃寅正月三日晩、垂水中之俣八十所に一宿仕、為宿礼相払申候、

〃——

一〇〇〇七百四拾八文

運賃

外七百四拾八文

但郷士年寄市来運右衛門殿出分

貳百文

但通夫貳人出分

右〃垂水中之俣〆鹿府迄丸木船壹艘借切、為運賃相払申候、

〃——正月七日

一〇〇〇七百四拾八文

御地頭所に

外七百四十八文

但郷士年寄市来運右衛門殿出分

右〃行年頭為御祝儀、肴一折・銘酒拾盃代として料物を以進上

仕候、

〃——

大隅農村社会経済史料 (三)

一〇〇〇七百四拾八文

東一郎様に

外七百四拾八文^⑧

但右同断

右〃行年頭断

〃——

一〇〇〇三百文

御取次衆に

外三百文

但右同断

右〃行年頭為御祝儀、肴一折・銘酒五盃代として料物を以進上仕候、

〃——

一〇〇〇百四拾八文

役人衆に

外百四拾八文

但右同断

右〃行年頭断ニ付、肴一折・銘酒三盃代として料物を以進上仕候

〃——十一日

一〇〇〇百四拾八文

海運賃

右〃行年頭為御祝儀、鹿府参上仕、右之通召仕申候間、先例之通

六九

被仰付度奉存候、以上、

与頭

守屋十太郎

寅正月十三日

御郷士年寄衆中

(行間書込、朱筆)

*
「
右之表

忽掛方

分四貫三百文

内壺貫文

賦飯料代

三貫三百文

兩種料並往來船賃

右可被相扨候、以上、

鄉士年寄

川俣龍藏

寅正月十六日

忽掛方

取抃衆中

一分三貫文(金)寅正月二日取替、

一々老貫三百文同月十六日受取申候、

右之通相受取申候、尤手形引替覺書之儀も相受取、月番郷士年寄衆に致返納候、」

差出

寅正月六日

六八ノ代

一卽銘酒五盃
代分三百五拾貳文

(分)

11

一印看一折^①
代分三百貳拾四文^(金分)

®

右式行年頭為御祝儀、和田家に進上仕候、

1

一①銘酒五盃
代分三百五十文（釐）

子金

1

一印着一折
代分三百貳拾四文

子(金)

右式行同断二付、梅田家江進上仕候、

1

一印銘酒五盃
代分三百五拾貳文

子(金)

一

一印着一折
代分三百貳拾四文

子金

右式行同断二付、川上家に進上仕候

守屋十太郎

寅正月十三日

当番

与頭衆中

(行間書込、朱筆)

*「 右之表

利良方

分四貫貳拾四文

右可被相払候、以上、

与頭

宮田十助

寅正月十六日

利良方

取払衆中

(約) 一分四貫文 寅正月二日取替、

一々式拾四文 同月十六日請取申候、

右之通相受取候、尤手形引替覺書之儀も相受取、我々当番方に
差出候、一

寅正月十四日晴天

与頭

〃

一⑩銘酒五盃 代分三百五拾貳文

〃

一⑩肴一折 代分三百貳拾四文

右式行同断ニ付、木上家に進上仕候、

〃——七日

一⑩銘酒五盃 代分三百五拾貳文

〃

一⑩肴一折 代分三百文

右式行同断ニ付、伊集院家に進上仕候、

〃

一⑩銘酒五盃 代分三百五拾貳文

〃

一⑩肴一折 代分三百文

右式行同断ニ付、加藤家に進上仕候、

右之通諸師匠家に年頭為御祝儀進上仕候間、先例之通被仰付度御
座候、以上、

一波見浦之新右衛門船木出跡、城山外廻り垣普請成就候段申出致見分候処、見賦所之内八ヶ所取落、式ヶ所間敷致不足候付、明十五日仕調候様申付置候、当番同役宮田氏并拙^者ニ而候、城山見廻福永喜右衛門・上野長兵衛・伊地知金之進罷出候、尤帰掛長殊庵之三所に立寄候事、

寅正月十七日晴天

一市来運右衛門殿^を鹿府ニ而金子老歩借用いたし居候ニ付、二朱式片今朝致持參候処、病氣ニ而伏居被居候故、叔母に相渡置候
一今朝東惣郷士^{（金立カ）}□□ニ而、屋地土越普請相調候、当番同役宮田氏・拙者・取払津曲休次郎・ふれ金左衛門・清左衛門ニ而候、
一九ツ時分^{（金候カ）}西郷士□□立ニ而、花牟礼溜池普請先例之通相□□、尤溜池見廻兄嶋善藏^{（金候カ）}願ニ付、立寄候処、例年之通賄有之候、尤当番同役宮田氏・拙者・柏原氏・取払天神善左衛門・津曲休次郎・ふれ清左衛門ニ而候、

寅正月廿一日晴天

一山見廻中嶋清六殿人別差杉并科差杉指南方とメ今日串良^并後田村中原に御差入有之、四ツ時分^并拙者差越、郷士年寄代相勤候、行司峯崎源兵衛・竹木見廻日高休八・遠矢直八相勤候事、

一新溜池頭差杉場御見分有之、直ニ高野鹿倉大山とメ右山見廻衆并行司竹木見廻同道ニ而被差越候ニ付、拙者事^并中原に残居候事

寅正月廿二日曇晴天

一今日勤方無之故、内用ニ付、窪園之長五郎同道ニ而、セツ時分宝田宗祝所に差越、彼所^并暮時分永野之三所^并四郎所迄差越、五ツ時分中原旅宿牧之市右衛門所に長五郎同道ニ而帰候、

寅正月廿三日晴天

一セツ時分行司遠矢半左衛門罷出候、山見廻衆并行司竹木見廻追々犬山戻り有之、暮時分中嶋清六殿旅宿四郎所に差越候処、峯崎源兵衛・日高休八・遠矢直八事と明早朝罷出咎ニ而致暇罷帰候、名主名代永野之三相勤候、尤拙者事と五ツ時分旅宿に罷帰候事、

一庄屋、郡見廻代りしらべ方に付、明廿四日九ツ時分山見廻衆に申断罷帰候様、当番同役方^并問合承候、

寅正月廿四日曇晴天

一山見廻中嶋清六殿に頼置、科差杉屈書に致印形、四ツ過中原^并罷帰、九ツ過当番同役宮田氏に致出會、郡見廻代り并庄屋代り調方いたし候、山下氏・柏原氏ニも出會有之候事、

寅正月廿五日曇天

一 取除も合式日ニ而、四ツ過る御地頭仮屋に出会いたし候処、本
闖當り吉川孫太郎・日高曾太郎・山下彦太郎相間ニ而候、出役
古郷士年寄山之内休之進殿・日高休左衛門殿、与頭拙者并 柏原
氏・山下氏、横目日高新左衛門殿・支配人安庭休兵衛殿、児
玉(玉權)之助殿・日高直之丞・町覚助・権右衛門・取払兩人(二而候)
事、

寅正月廿日(九)日曇雨天

一 利(利)良分取調として、毎年極月始我々同役中并 取払役其外利良
発起之面々御地頭仮屋に致出會、年々払錢無油断借付、本良相
増候様吟味相決候、当番同役柏原伴之進・山下彦一殿・拙者・
取払矢神善左衛門・津曲休次郎・本発起人山之内休之進殿・吉
川孫太郎出會之事、

一 伊東柳庵る旅人盜取方として他國に往来被仰付度段、願之趣有
之候由ニ而、郷士年寄衆より我々同役中ニも致連名候様承候得
共、旅人入来候上も取扱可致事候得共、右様之願書次書に致連
名儀も、御断申出候而可然と吟味相決、当番同役方る右之趣申
出候、出役山下氏・拙者ニ而候事、

一 触役谷口權之進事、野崎村庄屋跡役願出、外ニ願人数も有之、

大隅農村社会経済史料 (三)

右權之進帳末ニ書出置候処、当番同役被召呼、先年触役御受之
節、首尾能相動候ハ、願役可申付と之事候処ニ、帳末ニ相見得
候ニ付而を、与頭方へ仕損有之、右様之しらべニ而も無之哉、
致吟味申出候様、被仰付故、今朝差寄致吟味候処、しらべ書之
内に被仰付候ハ、帳末迎も存寄無御座段、申出候而可然と相
決候、出役同断之事、

寅二月朔日(寅)灰天

一 於御地頭仮屋勘定相始候処、当番同役柏原伴之進殿る出役いた
し呉候様承、致出會候、

寅二月二日晴天

一 吉井家法事有之、彼所る吉剋勘定方に服役いたし候、
一波見村平後蘭之上犬山いたし候もの共有之段、風聞承候ニ付、
昨夜新留村綱差見習庄右衛門・波見村綱差見習太郎召呼、糺方
仕申候処、人数申出候得共、彼山ニ而も無之向申出候趣、今晩
野廻四人拙者宅に罷出申出候得共、御場預横目津曲仲右衛門殿
他行ニ而吟味不相調候ニ付、帰宅之上致吟味管候、

寅二月五日曇晴天

一 後田村片野(下)山之四郎、外ニ五人、当正月四日高野鹿倉致聊止

狩、無調法之段、郷士兩人を以、昨日より申出趣承候事、

一 当番同役方の差寄之通達有之、致出会候処、片野下山共聊止狩之儀及相談、此節迄も致有免、先例之通科完^{（六カ）}申付候而可然吟味相決候、柏原氏・山下氏・拙者ニ而候事、

寅二月六日晴天

一片野下山共聊止狩差扣之儀、致有免、先例之通当番前^{（六カ）}ニ而科完申付候而如何可有之哉、御存寄無御座候ハ、右之通取斗可申旨当番方より承、存寄無御座段申越候、

一 野崎村和田之与四、右同之藤兵衛、古後庵之源助、和田之治右衛門、向木場之鉄太郎、西之蘭之三太郎、波見村平後蘭之太郎右七人共鉄砲持、野崎村和田之三、新留村和田之正右衛門、右式人大引ニ而、正月廿四日・廿五日芦平ニ而致狩方、御場近辺不屈之仕方致糺方候処、今日より昌林寺に走込、使僧人を以差扣申出候ニ付、請付、御場預役々中に差廻候様申達置候事、

寅二月十日晴天

一 締方横目吉井伊平次殿、今日野町伊三次所に御差入有之、今晚見舞いたし候処、横目宇都宮休藏殿・児嶋孫八殿・津曲仲右衛門殿・日高新左衛門殿被参居候事、

寅二月十一日曇雨天

一 昌林寺に去ル六日走込候もの共、御場預り役々中吟味之上、出寺申付候事、

寅二月十三日雨天

一 浦之新右衛門自大船大坂下り入津改并大嶋下り出帆改、其外旅船式艘入来居、改いたし候処、不正之儀無之候、郷士年寄代拙者・横目日高新右衛門殿・締方横目吉井伊平次殿・山方下目附中馬仲左衛門殿ニ而候、尤今晚天氣惡敷締方横目衆・拙者・横目衆事と新右衛門所に泊候、左候而浦役峯崎平八事も罷出候事、

寅二月十四日晴天

一 吉井伊平次殿今朝柏原之様御立有之、拙者并日高新左衛門殿事ハ喜兵衛所より小右衛門所之辺に立寄、同道ニ而罷帰候事、

寅二月廿日晴天

一 今日四ツ時御地頭飯屋へ致出会候様通達有之、差寄候処、趣法講掛り長谷場六郎殿野町に差入有之、此節趣法講御取立ニ付、高山より蘭六十召入候様、役々吟味可致段被仰付候由ニ而、致吟味候処、蘭拾五共より多クも掛方難成と申談、役々野町旅宿に差越申出候得共、蘭相少キ向ニ而御納得無之候、尤吟味出役月番

郷士年寄市来運右衛門殿・大田善兵衛殿・古郷士年寄吉井源助殿・吉井宗太郎殿・与頭柏原伴之進殿・拙者・横目児嶋孫八殿・津曲仲右衛門殿・地頭横目山下彦太郎殿・安庭^(橋)左衛門殿・郡見廻岩城勇八・右田半蔵二而候、

寅二月廿一日晴天

一市来運右衛門殿・柏原伴之進殿・拙者同道ニ而、尾之下詰枡方檢者荒武直右衛門殿并野町詰趣法講掛長谷場六郎殿に致見舞候事、

一九ツ過御地頭飯屋へ致出會、趣法講に相加蘭敷情々致吟味、拾七撰出し帳面ニ相認候而、役々野町詰趣法講掛衆に差出候處、是ニ而も御納得無之候、吟味之出役月番郷士年寄市来氏・大田氏・与頭柏原氏・拙者・横目津曲仲右衛門殿・児嶋孫八殿・地頭横目安庭氏・山下氏ニ而候事、

寅二月廿三日雨天

一御地頭飯屋へ差寄有之、趣法講蘭敷相重候様情々吟味有之候得共、先達而之蘭敷相重所一切無之候故、右之外相調不申段可申出筋、吟味相決候、出役月番郷士年寄市来運右衛門殿・大田善兵衛殿・河俣龍藏殿・古郷士年寄日高休左衛門殿・山之内休之進殿・吉井宗太郎殿・内之浦七郎次殿・与頭柏原氏・山下氏・

拙者・横目児嶋孫八殿・津曲仲右衛門殿・宇都宮休藏殿・日高新左衛門殿・御地頭横目安庭権左衛門殿・山下彦太郎殿・郡見廻右田半蔵二而候事、

寅二月廿四日雨晴天

一於日新院例年之通御田踊有之、致出會候、出役郷士年寄大田善兵衛殿・古郷士年寄吉井孫助殿・同宗太郎殿・与頭柏原氏・山下氏・拙者・地頭横目安庭権左衛門殿ニ而候、

寅二月廿五日晴天

一於御地頭飯屋取除模合有之、致出會候、出役月番郷士年寄市来運右衛門殿・与頭柏原氏・山下氏・横目日高新左衛門殿・地頭横目山下彦太郎殿・支配人日高曾兵衛・書役^(守應)求馬・町正太郎・寛助ニ而候、尤趣法講取しらべ之通郷士召寄申渡候事、

寅二月廿六日晴天

一当番同役柏原伴之^(進)殿宅へ今晚差寄之通達有之、致出會候處、去ル十一日夜神之市図師直八所に致借宅居^(候)甚太庭にもにきり有之、郷中僉儀仕候處、長友甚左衛門妻酒狂ニ而、毛頭不取寛両度右之所に參候段承届、差火本之不審ニ而無御座候間、内々ニ而取計置申度段、郷中小頭日高金八・窪田正兵衛方申出候ニ

付、申出之通内々ニ而取斗置候様申付置候処、差火紛敷風説いたし候ニ付、如何取斗候而可然哉之旨、及相談候故、致吟味候処、同役中出席之上、郷中小頭召呼承届候上、成行月番郷士年寄衆に可申出旨相決候、同役^(山下)□□氏出会有之候、宮田氏事と病氣ニ而出会無之候事、

寅二月廿七日雨天

一神之市郷中小頭御地頭飯屋へ罷出候様、当番方取計有之候処窪田正兵衛事も他行ニ而、日高金八老人罷出候ニ付、昨夜吟味之次第承候越左之通、

一去ル十一日甚太事も申良に差越、夜入候而罷帰候処、庭にもえきり^{○有之}。不思議之事と相考、直ニ内に持入、妻ニ相糺候処、毛頭不存段申ニ付、猶又不思議ニ相考、直ニ庭に出致馬飼候折、長

友甚左衛門妻庭を罷通、月夜ニ而能相知れ居、互ニ致応答、甚太事は内に入居候処、庭ニ人之静ニ来ル音^(有)之候故、蜜ニ戸口之柱に立寄相伺居候処、戸口之真前え来り候ニ付、直ニ戸引明ケ相咎候処、右之長友氏妻ニ而候故、今晚は不思議之事有之候、先内に入御咄可被成と申、同道ニ而内に入、尙尙相咄候処、酒氣之駄相見得居候、無程帰宅有之候事、

一去ル十二日朝、甚太事長友与右衛門所并小野原六太所に差越、昨夜之次第咄いたし候処、小野原六太る中村正藏を以郷中小頭方へ右之成行申出候ニ付、長友甚左衛門妻相糺候得共、委ク不相知、郷中召呼相糺候処、長友甚左衛門妻事と長友与右衛門所に衣類為仕□差越、焼酎茶家式ツ吞、夫窪田次郎兵衛所に差越焼酎相望、茶家尙ツ吞、甚太所庭迄兩度致徘徊候得共、一度差越候様相覚居候故、致徘徊取落置候哉と郷中致吟味候処、右之親類方禁酒申付、郷中に差扣被申候ニ付、其□と召置候、右両条相違無之ニ付而も、差火之駄と不相見得、然共甚太事も不相糺候而は難決、右ニ付支配下之事ニ而も無之候間、月番郷士年寄衆に可申出吟味相決、当番同役柏原伴之進殿被申出管候、尤山下彦一殿事も出会有之候事、

寅三月五日曇天

一^(同)久根仲太継目願書次書に致印形候、尤^(同役カ)□□山下氏・柏原氏連名ニ而候事、

寅三月九日雨天

一当番同役於山下氏宅致弓垣賦候、尤出役柏原氏・差付人日高八郎太殿・書役守屋求^(馬)□ニ而候、

寅三月十二日晴天

一 波見浦之新兵衛自大船三金丸、大坂下入津改并同浦之小右衛門
三枚帆入津改、外ニ他国ヲ借入船出帆改之願申出、改方いたし
候処、不正之儀無之、先例之通御船手に御届申上候、締方横目
○上村善助殿
中村喜平次殿・次田十次郎殿・志布志詰同役野村源兵衛殿・山
方下目附○郷士年寄氏拙者・横目宇都宮休藏殿・浦役名代峯崎
市助ニ而候、暮時分相濟、宇都宮氏同道ニ而罷帰候事、

寅三月十七日雨天

一 浦之新右衛門自船三盛丸船見之願并三勝丸入津改之願申出、先
例之通相改候得共、不正之儀無之候、締方横目○事志布志に
御越有之、御出会無之候、出役○方下目付津留喜平次殿、郷士
年寄代拙者・横目日高新○衛門殿・書役名代谷口清左衛門ニ而
候、

一 御手總方藏方目付伊地知八○左衛門殿昨日内之浦を御出有之、
日高新左衛門殿同道ニ而見舞候、尤当浦網敷三ヶ年思取得高取
しらへ候様、先達而罷出○役申付置相糺候処、○帖
有之候得共、不○候処、去十月を取上居候段申出候ニ付、右
之趣○藏方目付衆に申出候処、口達に而も不相濟候ニ付、当○

6 ○趣為書出、次書いたし差出候様被仰付候、外ニ手○網并
持網御座候得共、致商売程之事ニ而無御座談申出候処、○之位儀
ハ上納方ニ及間敷段被仰付候、尤浦役峯崎平八も致同道候事、
寅三月十八日曇晴天

一 今朝日高新左衛門殿・峯崎平八同道ニ而、藏方目付衆に差越、
昨日承知之書付差出候処、御受取有之○、今日御立無之候得
共拙者并新左衛門殿事致暇候、左候而役所に差越、直ニ谷口清
左衛門同道ニ而罷帰候、直ニ月番郷士年寄大田善兵衛殿に届申
出候事、

寅三月廿一日晴天

一 模合高取調、米直并御蕃取調いたし候、当番同役山下氏并柏原
氏・拙者○席候、取払津曲○次郎・守屋求馬・書役大窪
与早太罷出候、

寅三月廿二日雨天

一 御鳥見頭満尾喜○御鳥見牧金左○西侯に御用有之、
差越○候処、○日野町に御○、尤垂水家中○元一二外ニ宅
人相付罷○
(破損甚)

〔夜入候而〕〔迄致同道、

直ニ帰宅

寅三月廿五日晴雨天

一御^(役々)衆并所^(役々)同道ニ而、高崇寺^(役々)に拙者^(役々)に御越有之、九ツ過
爰元御出立被成、大崎之様御越有之候、

一取除も合式日ニ而、御地頭飯屋へ致出会候、出役月番郷士年寄
大田善兵衛殿・与頭^(山)下氏・柏原氏・拙者・横目児嶋氏・日高
氏・御地頭横目山下彦太郎殿・取払津曲休次郎・守屋求馬・先
取払日高直之丞・^(町)権^(町)衛門・仁平次・正太郎ニ而候事、

寅三月廿八日晴天

一弓之事、首尾能相濟候、幣之役日高平八郎、金之的・感之勝負
野村甚之丞、出役月番郷士年寄^(町)市来運右衛門殿・
河俣龍藏殿・与頭山下氏^(町)取払津曲休次郎・守屋求馬ニ
而候事、

寅三月晦日晴天

〔当番相受取、月番郷士年寄大田善兵衛殿に〕〔事

寅三月十二日

〔善助殿・次田十次郎殿・^(伊方)検者^(忠)元善右衛門殿

〔御越有之候、枅方にも吉川五左衛門相付居候事、

寅閏三月廿七日晴天

〔次田十次郎殿・土村善助殿昨夜野町に御差入有之、
致見舞候、尤明廿八日鉄砲解封被成下管候ニ付、明日も無間遣
御地頭かり屋へからくり差出候様、郷士方・野町・在都而取斗
候、左候而野廻方を取調有之候様申越候事、

寅^(閏三)三月廿^(八日之)晴天

一^(目)今^(目)鉄砲からくり致取揃方、八^(後)後於御地^(町)飯^(町)田十次郎
殿・上野善助殿を解封^(町)被預り役皆々同道ニ而

〔罷帰候、拙者并

(本文十行程度破損、欠)

付、町田助

御差入

候処、郷士

年寄衆

見

候様

差越候処、横目津曲右

衛門・郡見廻岩^(郷)勇八差越被居候、横目日高新左衛門殿・児嶋

孫八殿事

爰元極貧もの共鶏卵上納訴詔申^(出々)為被置

由候処、此節榮劣致見分、其届可申出旨被仰付、拙者致廻初候
間、家居不持合もの又も物貫駄銘々^(致々)分^(分可々)調^(分可々)差出^(致々)、右当

方目付衆を致承知候付、 番郷士年寄衆にと申出置、助
右衛門殿事ハ 先 に相付被參候、町田宗 殿ニ而候事

寅四月七日雨晴天

 訴詔人数榮劣 取込之 所に四ツ時分

 方目付衆御旅宿に差越候処、

由ニ而、未御帰無之、相待居、帳面 候、尤拙者事

は当 外御用有之、罷帰候、出役与頭柏原氏・津曲氏・拙

者・横目児嶋孫八殿・日高新左衛門殿・郡見廻岩城勇八ニ而 候事

寅四月八日晴天

一津曲次五殿に今朝当番次渡候事、

 四月 晴天

一調練稽古 村差越、稽古相調候、惣頭郷士年寄市 門殿

・大田善兵衛殿・河俣龍藏殿・与頭柏原伴之進 日

高新左衛門殿 而候、

 四月十八日雨天

(虫喰破損甚シク数行欠、此ノアタリ各行虫喰アリ)

 目 右衛門殿・地・横目山下 用之儀

惣兵衛星当リニ而候 文化三年寅 月 四日 城慈鏡院

大隅農村社会経済史料 (三)

仕立模合巻 掛ニ而、年ニ三度ツ、 七拾五有之、其内五

拾三高山、式拾貳串良闇ニ而 右 良闇追加式拾、新手式口

ニ相成、六拾六番座を追 年 、其節高山新手闇八ツ

相殘居、串良追加 年式拾貳を引受、模合座仕来候処、当四

月七拾三番座ニ而掛出無之人数段々有之、支配人清水地藏院・

守屋求馬・図師善良坊を不及手段申出候付、取斗之次第左 通

一福 喜右衛門・上村五右衛門・浜江仲左衛門・四元 何

様之訳ニ而掛出不致候哉之旨、相礼候処、も合相 不

申、甚大方之至、 候段申出候ニ付、 拾ニ而召

置候事、

 次郎太事は串良新手闇ニと掛出 ニ付、

本七拾五之闇 節取入 七拾五番座迄掛出不致

候 取込之方 三ケ年 為申聞候処、致納得候ニ付、

 召置早々役 申達候事、

 右衛門事と模合相済候段申触、甚心入不宜段 達候処、

 分無之、無調法至極奉存候段 出候ニ付、忝人ニ 触

を諸人間違、不掛出我 ニ罷成候儀、屹度而人 差控申出

候様、申達候事、

一出役当番津曲次五殿・柏原伴之進殿・拙者ニ而候事、

一小倉源右衛門事^(小倉)更無調法至極奉存候殿、郷士兩人□ヲ以、今晚申出候事、

寅四月廿二日晴天

一□山正次郎・池袋正次郎事・小倉源右衛門差扣とメ相廻候事、

一益山甚五右衛門娘座敷内出方之願書に次書相認、当番同役津曲氏も被差廻候ニ付、致印形候事、

^(前四) 廿三日晴天

一^(小倉)源右衛門 致有免候而 被差廻候ニ付

□^(以下欠損数行)

寅四月

一取^(除機)合式日ニ而、御地頭飯屋に致出会候、尾之下^(之)□佐太

□^(寄市来運)寄市来運^(右衛門殿)・古郷士年寄

柏原氏・拙者・横目 殿御地頭横^(三)□山下

□^(取)取私守屋求馬・先□日高直之丞・町正太郎・覚助・周助ニ而候事、

寅四月廿七日晴天

一昨廿五日晚も昨廿六日朝迄之間、大風洪水ニ而、諸所少々宛

之破損有之候、然共諸作職痛相少と之取沙汰ニ而□、尤^(候九)□^(水九)勢六尺計相増候得も、屋治土越を越程ニ有之候事、

寅四月晦日雨晴天

一調練賦替并模合諸方取方吟味、津曲氏代リ式才小頭しらべ、有

馬清助跡養子願書次書相調候、当番与頭津曲次五殿・山下彦一殿・柏原伴之進殿・拙者ニ而候事、

寅五月五日曇雨天

一於地頭飯屋、先例之通出仕有之候、尤御地頭様を学文武芸出情いたし候様、被仰渡趣有之、今朝出仕之□申渡有之候事、

一趣法□掛御作事奉行。昨日野町□御差入有之、御參勤方御用御貸上良可被仰付候間、^(所中九)余勢有之もの□身分之沙汰ニ不及取しらべ、名書差出候様被仰付候由ニ而、取志らべ方吟味有之候得

共不相決候事、

出役月番郷士年寄日高八郎太・大田善兵衛殿・河俣氏・古郷士年寄宇都宮蓮淨院殿・内之浦氏・吉井宗太郎殿・与頭柏原伴之進殿・山下彦一殿・津曲氏・拙者・横目日高新左衛門殿・宇都宮休藏殿・津曲仲右衛門殿・地頭横目山下彦太郎殿・安庭権左衛門殿ニ而候事、

寅五月六日曇雨天

一御貸上良人数取しらべ有之、日高直助・守屋彈正・中原之太郎

・町伊兵衛・日高休左衛門・吉井孫助・町正八・伊右衛門・□

原直右衛門・論地之四郎右衛門・尾之下之佐助拾壺人名書差出候而可然筋相決候、出役昨日同斷、然共古郷士年寄之儀は日高直^(殿)□□・吉井宗太郎殿・山之内^(係)□□之進殿ニ而候事、

一九ツ時分^(同)□役柏原氏宅ニ而踊賦いたし候、尤山下氏・津曲氏・拙者・式才小頭四□□、書役罷出候事、

寅五月十日雨天

一御吊踊稽古いたし候様、役者人数。^{○今晩御地頭飯屋江}召寄申渡候、当番与頭柏原

氏・山下氏・津曲氏・拙者ニ而候事、

寅五月十一日晴天

一二丸御統料方藍玉^(掛)□横目平山作右衛門殿野町に御差入有之、差越候処、先達而藍作御差留之段被仰渡候得共、苗蒔入候後ニ而候間、万一苗蒔入居候ものは都而焼捨候様、所中に申渡、銘々支配頭^を屈為申出候と、屈拙者廻動先に可被申出段致承知候、尤藍玉之儀と紺屋職不致ものにも式百文位替迎も被仰付候間、是又不洩様可被申渡旨、承知いたし候、出役拙者^并同役津曲次五殿・郡見廻矢神善左衛門ニ而候、左候而拙者儀は内用ニ付、津曲氏杯に頼置、直ニ締方横目平田十郎太殿に致見舞罷歸候

事、

寅五月十二日曇晴天

一二丸御統料方藍玉掛横目平山作右衛門殿に同役津曲次五殿相付宮下村・富山村に被差越候、通掛前田村役所城戸口に藍苗有之候を見当り被相答候ニ付、掛役不行届段断申濟、直ニ相糺、為焼捨、其届可申上段申上置候ニ付、取計可被成と之趣、右次五殿^を承候事、

寅五月十三日雨天

一鹿屋詰御作事奉行趣法講掛久保長右衛門殿に守屋彈正・日高直助兩人え御用有之候処、御借上良方ニ付、掛役首尾方と^を被差越候故、致同道、御貸良相重掛役衆に申出置候処、不及対面御用相濟候、掛郷士年寄日高八郎太殿・掛横目宇都宮休藏殿・彈正名代拙者・直助名代六太郎・吉井宗太郎・町伊兵衛・正太郎・中原之長五郎同道之事、

寅五月十五日曇天

一月番郷士年寄日高八郎殿^を拙者^并津曲次五に今晩出会之通達有之、差越候処、鹿屋居住梶原源太左衛門事去ル十二日富山村新助所に罷出、過言お申、其上掛役々に御用申越候ニ付、右様之

致場^{ツマ}ニ而候哉之旨、此節廻動横目衆に相伺善候事、

寅五月十六日晴天

一 締方横目岩城武兵衛昨日野町喜助所に御差入有之、今朝致見舞候得共留守ニ而候事、

一 谷山移之善右衛門と申すもの、藍葉蜜々致手製法、致商売哉ニ相心^得□、今日御地頭飯屋に召呼相札候処、去丑年自作藍有之、

致製法持合居候も、串良中山中宿之^{久本}釘田万左衛門・爰元野町之源次郎兩人被參、売出方差留被置候得共、四月廿六日之洪水ニ

致流失候段申出候、委細之儀は藍玉掛方箱ニ有之候、出役月番

郷士年寄日高八郎太殿・拙者・郡見廻右田半蔵ニ而候事、

寅五月十七日晴天

一 今朝野町之源次郎召呼相札候処、昨日善右衛門申出候通相違無之候、八郎太殿・拙者ニ而候事、

寅五月十九日晴天

一 二丸御統料方藍玉掛横目平山作右衛門殿、今日柏原波見浦に差入之段相違、郷士年寄助日高八郎太殿・拙者・郡見廻右田半蔵殿同道ニ而紺屋主取召列差越候処、最早波見町三四郎処に着被成候、今日波見村之平之丞所紺瓶改方有之候事、

一 野町之宗八・金次郎・波見村之平之丞・宮下村之小八・富山村之新助紺瓶不正之^{方ニ見得}伝有之段、横目衆より承、銘々書付達次第、庄屋・在役之間召列罷出候様申渡候、尤前田村谷山移之善右衛門事も罷出候様可申越旨、横目衆承申渡候、尤右善右衛門拔藍披露書差出候事、

寅五月廿日晴雨天

一 野町之宗八・金次郎・波見村半之丞・宮下村之小八・富山村之新助・紺靈不正之儀致札方候処、銘々自作藍少々持合居、

相受置、今更驚入無調法至極奉存候段^{誤書}差出候ニ付、^{○次書を以}右之成行申

出候、日高氏・拙者・右田氏連名ニ而候事、

一 鹿屋居住梶原源太左衛門事、横目衆御用申渡被置候由ニ而、

御旅宿に罷出候処、前田村谷山移之善右衛門披露書之次第被相

札候処、披露書ニ相違無之、切封之所、去十二月朔日之由申出候、野町之宗八被相札候処ニ右同斷申出候、右善右衛門被相札

候処ニ二月比ニ而モ御座候哉之旨申上置候得共、慥ニ覚不申段申出候事、

一 浦之吉兵衛所に締方御横目平田十郎太殿御詰居ニ而候故、日高氏致同道見舞候、尤今晚締方御横目岩城武兵衛殿・平山殿御旅宿に被參候、尤今日中原波浦之六助所に御転宿之由承候事、

寅五月廿一日雨晴天

一 串良中山居住之久木田万左衛門事、御用ニ付、昨夜も罷出居候由ニ而、平山殿御旅宿に罷出候處、前田村之善右衛門披露書之成行被相糺候處、梶原源太左衛門申出之通申出候、左候而四ツ時分波見浦御出立ニ而内之浦之様御越有之候、我々事も波見^(可力)□之政次郎処引弘、日高氏・拙者同道ニ而締方横目岩城武兵衛殿・平田十郎太殿に見舞候而帰掛宮之脇之宗右衛門所に相待居。致同道候事、

一 暮時分御地頭飯屋に致出候様、郷士年寄大田善兵衛殿より被仰越差越候處、模合出良取納方ニ付、段々不埒之人有之、吟味之上、此節迄も叱捨ニ而相済候、以後取納之節も、一日取納ニ而致不參候ものも、吟味之上□□可申付段相記、廻状差廻答申談候、出役善兵衛殿・拙者・横目津曲仲右衛門殿ニ而候、町けさ四郎罷出致出納候事、

寅五月廿二日晴天

一 模合出良支配人波江野正右衛門手先田原惣左衛門罷出候ニ付、於野町引渡相済候上、又々預り置候、八部備も差遣段、右正右衛門方に預り遣置候、尤出役拙者并掛横目津曲仲右衛門殿ニ而

大隅農村社会経済史料 (二)

而候、郷士年寄大田善兵衛殿事は山奉行衆に御出役ニ而候、

寅五月廿四日曇天

一 郷中小頭老人ツ、御地頭飯屋へ暮六ツ時分を召寄、藍作御取締之儀申渡、而藍連も一切無之段受書差出候様申達候、掛郡見廻右田半藏事も出会之管候處、家内病人支ニ而出会無之候、尤罷出候小頭児嶋善藏・上村勇助・右田仲太・山之内甚次郎・日高直之丞・日高。永井休右衛門・柿元万右衛門ニ而候、左候而吉川孫太郎・切通平之進病氣之段山之内甚次郎を申出候、風早純良病氣之段上村勇助を申出候ニ付、銘々訳申出候人を右之趣相達候様申付候事、

寅五月廿五日晴天

一 本取除も合有之、安庭権左衛門殿本闔当ニ而候、尤出役古郷士年寄山之内休之進殿・与頭柏原氏・山下氏・津曲氏・拙者・横目日高新左衛門殿・児嶋孫八殿・御地頭横目山下彦太郎殿・安庭権左衛門殿・取払守屋求馬・支配人日高直之丞・同権右衛門・覚助・周助ニ而□^(衆)、尤大窪郷八無訳不參ニ而候事、

寅六月朔日晴天

一 宮下村樋之口門金次郎去廿八日逢盜候段、申出候故、八ツ時分

ニ宮下村に差越、段々致^(札)方候得共、不相知候ニ付、入札迄爲入候得共、手掛無之、夜半過宮下村引払罷歸候、尤出役拙者并山下氏・横目宇都宮休藏殿・日高新左衛門殿・兒嶋孫八殿・御地頭横目安庭權左衛門殿・郡見廻岩城勇八ニ而候事、

寅六月十一日曇雨天

一御地頭飯屋虫干として致出会候様、昨日通達有之、致出会候、尤出役月番郷士年寄大田善兵衛殿・^(市)来運右衛門殿・与頭山下氏・柏原氏・津曲氏・拙^(者)・横目兒嶋孫八殿・津曲仲右衛門殿・宇都宮休藏殿・御地頭横目山下彦太郎殿ニ而候事、

寅六月十三日雨晴天

一正九ツ時惣郷士召寄、於日新院例式之通御吊踊首尾能相濟候、尤出役月番郷士年寄大田氏・日高氏・市来氏・河俣氏・与頭山下氏・津曲氏・柏原氏・拙者ニ而候、
一今晚御燈爐掛先例之通相調候、出役郷士年寄市来氏・河俣氏・日高氏・与頭山下氏・柏原氏・津曲氏・拙者ニ而候事、

寅六月廿日雨晴天

一当番同役山下氏宅ニ而高帳押札いたし候得共、不相濟候、尤高帳載・死除願書に次書相添、致印形候、柏原氏・津曲氏・拙者

致出会候、取払津曲休次郎・守屋求馬出役、大窪与宗太罷出候、

寅六月廿一日晴天

一高帳押札今日迄相濟候、出役昨日同断之事、

寅六月廿二日晴天

一新留村本村門鉄之助事、昨日帷子式枚逢盜候段申出候由ニ而、出会之通達有之、今朝御地頭かり屋へ差寄致吟味候処、昨日庄屋前ニ而、走込^(マ)改^(マ)相濟候向ニ而、外ニ札方之糸口無之故、近郷質屋改頼越候上ニ而、御披露申上筋相決候、出役月番郷士年寄大田善兵衛殿・河俣氏・市来氏・与頭山下氏・津曲氏・柏原氏・拙者・横目^(宇都宮)宮氏・津曲氏・日高氏・御地頭横目山下氏ニ而候、

一御南様式百五拾年忌、当年九月九日に相当候得共、肝付家ニ而御死去被遊候御方ニ而候^(故方)、如何仕候而可然哉之旨、御差図書相認致印形候、郷士年寄与頭連名ニ而候、

寅六月廿三日晴天

一上田伝二繼目願書次^(書)相^(認)同役山下氏被差廻候ニ付、致印形候、同役中連名ニ而候事、

寅六月廿四日晴天

一前田村溝口門五左衛門事、一昨廿^(二九)日夜西川百余逢盜候段申出

候由ニ而今晚出會之通達有之、御地頭に致出會、吟味^(三)

得共^(四)候事ニ而、糺方之手寄無之町西川^(五)屋致改方候得共、

不審之簾不相見得候ニ付、近方糺方之手当いたし置、夜明前

一剋引取候、尤出役月番郷士年寄大田氏・河俣氏・^(五)頭山下氏

・津曲氏・拙者・横目宇都宮氏・御地頭横目山下彦^(六)・口

事方伊東佳納次殿・右田氏ニ而候事、

寅六月廿五日晴天

一今朝明六ツ時右西川^(五)畠致見分候得共、最早日数経候事ニ而委不

相知候ニ付、近方相集候上、致糺方候得共、毛頭糸口不相知候

ニ付、四ツ時分引取候、出役昨夜同断、外ニ横目日高新左衛門

殿・御地頭横目安庭権左衛門殿ニ而候事、

一取除も合方に九ツ時分^(七)致出會候處、社人近間休藏本闔当リニ

而候、分式^(八)百文程渡違ニ而も候哉、都而貸付候節引入候、出役

月番郷士年寄大田氏・古郷士年寄山之内氏・与頭山下氏・津曲

氏・拙者・横目日高氏・児嶋氏・御地頭横目山下氏・取払守屋

求馬・津曲休次郎・も合支配人帳首尾日高直之丞・町伊兵衛・

周助・権左衛門ニ而候事、

一社人有馬^(九)裳婆八事、座敷内徘徊被仰付、囲出方とノ月番郷士年

寄大田善兵衛殿・横目児島孫八殿・日高新左衛門殿被差越候ニ

付、拙者社家頭取名代とノ暮六ツ時分御地頭飯屋^(一〇)同道ニ而差

越候、親類共に仰渡之趣被申聞、囲出方有之候事、

寅七月五日雨晴天

一今朝山下彦一殿^(一一)當番相受取、月番郷士年寄市来運右衛門殿に

届申出候事、

寅七月八日雨晴天

一昨七日晚々今朝迄大風洪水ニ而候得共、諸作職^(一二)痛相少候、尤

波見浦ニ而破船有之、死人八人之由承候事、

寅七月十一日晴天

一今朝月番郷士年寄日高八郎太殿宅に致出會、東西相分、公路致

見分候、津曲氏・拙者・横目児嶋孫八殿・御地頭横目安庭権左

衛門殿同道ニ而^(一三)列、東致見分候、西之儀^(一四)と山下氏・柏

原氏・横目日高新左衛門殿・ふれ^(一五)左衛門ニ而候事、

一模合出良取揃方^(一六)酒匂善左衛門手先原口金太郎罷出候處、掛

郷士^(一七)衆并掛横目衆別勤ニ而他行之事故、月番^(一八)寄^(一九)寄^(二〇)

相伺候上、横目児嶋孫八殿立會ニ而八ツ時分致引渡方候、左候

而二丸御統料掛御見聞役衆に届申出候事、

寅八月朔日曇天

一〇朝津曲次五殿に当番次渡候、尤御地頭飯屋へ致出会、節句出仕有之候、月番郷士年寄太田善兵衛殿・与頭津曲氏・拙者・横目日高氏ニ而候、

一御場預役々に科良被仰付候得共、上納方相滞居候ニ付、同役出府、柏原氏に相頼置候処、御当り之御書付遣候様、鹿府間屋方今朝申来候ニ付、遣候事、

寅八月二日曇天

一不埒もの共為取締砂持有之、新道口に出勤いたし居候処、波見浦之新右衛門自船三盛丸入津改之願申出候由ニ而、差越、名代相勤候様、月番郷士年寄太田善兵衛殿を被仰越、横目日高新左衛門殿同道ニ而、九ツ時分出立ニ而、波見浦に差越候、締方横目大田筑左衛門殿・伊東新之丞殿・猿渡彦八殿・柴山権助殿・渡辺七之助殿・川口詰山方下目付野村源七郎殿・浦役峯崎平八立会候得共、風波ニ而改方不相調候事、

一右出役都而引取有之候得共、拙者并新左衛門殿事ハ新右衛門所に泊居候事、

寅八月三日曇天

一締方横目大田筑左衛門殿、柏原を波見浦に御転宿有之候ニ付、御旅宿宗吉所に新左衛門同道ニ而致見舞候而、見合居候処、今日暮時分川口に三盛丸引入候得共、改方不相調候事、

寅八月四日曇天

一今朝三盛丸改方いたし候得共、不正之儀無之、成行之御届申上候、締方横目大田筑左衛門殿・山方下目付野村源七郎殿・^(御七)年寄代拙者・横目日高新左衛門殿・浦役峯崎平八^(二面)候事、

一屋久嶋御統米積船三枚帆 羆吉丸出帆改之願申出、相改候処、不^(正)儀無之、御屋久嶋方に御届申上候、立会役^(八分)右同断、

一締方横目大田筑左衛門殿、野町に宿移有之候ニ付、拙者・新左衛門殿三人同道ニ而七ツ時分罷帰候、

寅八月五日晴天

一於^(御)地頭飯屋、右筑左衛門殿鉄砲切封被成下候、郷士年寄市来運右衛門殿・与頭拙者・横目津曲仲右衛門殿・野廻上村勇助・野元八次郎・日高曾之^(通出)席ニ而候、

一筑左衛門事、七ツ時分野町出立ニ而、後田村永野に宿移有之候、尤御出立跡伊兵衛所に立寄候、曾之進事ハ直ニ罷帰候、

一十次郎家作用杉木・城山に申受置候ニ付、明日より出方に取付可申段、届申出合ニ而、月番郷士年寄大田善兵衛殿宅へ今晚差越候処、留主之故、御内室に相頼置候、外役々にハ親より申置由候、

寅八月六日晴天

一長ヶ原道普請と、早天に致出勤、夜入時分罷帰候、郷士年寄市来運右衛門殿・横目宇都宮休藏殿・郡見廻岩城勇八・用水掛郡見廻加役小牧惣右衛門出勤有之、皆々同道ニ而罷帰候事、

寅八月七日曇天

一波見浦之新右衛門小船三勝丸、屋久鳴登、前之浜より致入津、改方之儀申出、役々立会相改候処、相違之儀無之候、出役締方横目大田筑左衛門殿・伊東新之丞殿・猿渡彦八殿・柴山権助殿・^(惣)目辺七之助殿・山方下目付野村源七郎殿・郷士年寄代拙者・横目新左衛門殿・浦役峯崎平八ニ而候、尤夜入候而罷帰候、日高新左衛門殿同道之事、

寅八月十三日晴天

一当番同役津曲次五殿より同役中出合之通達有之、差寄候処、富^(加見新)事□□□□未十一月郷士年寄所出役□□□□番郷士年寄山下彦八殿差図之上、野町諸在□外御示木科分并板屋駄賃分上納方

大隅農村社会経済史料 (三)

^(野町カ)□□年行司権兵衛に相談いたし、請合鹿^(鹿)□□□上いたし候故、皆上納相済候哉ニ皆々相^(考)居候処、此□□上納方被仰渡候処、右之成行右権兵衛其外より申出、右新十郎事上納分中取いたし、身分難立成立候故、親類風早純良・大窪有心・桑畑金左衛門召呼右之成行為申聞候処、甚無調法仕候段申出候ニ付、親類前より致皆上納、受取書差出、其上ニ而右披露いたし候方に申断、披露書取下候様取計候而可然段、為申聞候、尤津曲氏・柏原氏・拙者ニ而候、山下氏事ハ病ニ而出会無之候、

受取 別良方

一式朱良三片^(銀) 分ニノ式ノ七百文^(銀)

見分 宮原甚左衛門印

但 兩ニ付七ノ式百文替^(銀)

一分五百文^(銀)

合分三貫貳百文^(銀)

良ニノ三拾貳文^(銀)

但 壹人ニ付四匁々

高山御場預郷士年寄助

吉井宗太郎

八七

右同与頭

守屋十太郎

右同横目

津曲仲右衛門

右同野廻

上村勇助

外二三人

右同郡見廻

大窪郷八

右は当所之^(長力)□太郎事、去九月台弓を以、羈に矢付候、右ニ付而

と取締不行届□□ニ付、右之通科長被仰付候旨、以御証文被仰

渡候間、可被受取旨、物奉^(行方)□□寅八月四日任引付上納也

寅八月五日

本脇八次郎印

中村源左衛門印

右本々寅八月十四日御場方箱之内、野崎村之長太郎羈仰示一件

入袋ニ入付置候、

寅八月十四日晴天

一宮下村詰地方御檢者川上助五郎殿・楠北良右衛門殿方に差越、

郷士年寄代相勤候様、月番郷士年寄衆に致承知、郡見廻岩城勇八同道ニ而九ツ時分差越、右兩人に致見舞候、尤落水之金右衛門所に右勇八同宿いたし候、用水掛小牧惣右衛門事も罷出候得共、今晚釐之様罷帰候事、

寅八月十五日雨天

一今朝勇八同道ニ而御檢者衆御兩人に見舞候、尤今日迄相勤候様致承知居候ニ付、又々八ツ時分郡見廻同道ニ而見舞候得共、御用之儀も無之候ニ付、明日より郷士年寄当役罷出可申段申出、七ツ時分暇いたし、釐之様罷帰候、左候而帰掛月番郷士年寄大田善兵衛殿に右之成行申出候事、

一今日拙者宅ニ而水神講有之、馬場中人鉢巻人ツ、差寄候事、

一今晚町取除模合に出張候、拙者并伊三次・権兵衛ニ而候、尤伊

三次所ニ而候事、

寅八月十六日雨晴天

一今日七ツ時分右模合相済罷帰候、尤締方横目伊東新之丞殿・猿渡彦八殿一昨十四日野町権兵衛・利八所に御差入之段、今日承、致見舞候、横目津曲津曲仲右衛門殿・日高新左衛門殿^事も見舞有之候事、

寅八月十七日雨晴天

一 締方横目伊東新之丞殿・猿渡彦八殿、宮下村之様御転宿之筈ニ而、今^(日)致見舞候、横目宇都宮休藏殿・日高新左衛門^(殿)事も同断之事、

寅八月^(日)曇天

一 惣郷士召寄、先例之^(通御)弓場普請相調候、当番同役津曲次五殿・柏原氏・拙者致出候、尤差引日高新左衛門殿同断、同役山下氏事ハ足病ニ而候、

寅八月廿五日晴天

一 取除模合と御地頭飯屋へ致出候、波見村別府門三太郎本圖当リニ而候、本役月番郷士年寄大田善兵衛殿・古郷士年寄山之内休之進殿・与頭津曲氏・柏原氏・拙者・横目津曲仲右衛門殿・御地頭横目安庭権左衛門殿・支配人宮田十助殿・日高直之丞・郡見廻矢神善左衛門ニ而候、尤町仁平次・覚助罷出候事、

一 野廻上村勇助代リ相しらへ候事、

一 御場預役々科良^(殿)上納受取写、月番郷士年寄衆に差出置候事、

寅八月廿六日晴天

一 長殊庵谷鉄砲場普請見賦と四ツ時分差越候、夫三十人斗ニ

而致成就程合ニ而候、当番与頭津曲次五殿・拙者・郡見廻兼務庄屋^(十郎)・名主甚左衛門ニ而候、尤吉井孫助・^(郎)次・永井金之進・切通平太・兒玉権之助・伊東柳庵被罷出候事

寅九月二日雨天

一 肝付廻根極印改藏方目付佐藤半藏殿、今日串良池之原ハ波見浦に御差入之筈ニ而、郷士年寄代相勤候様、月番郷士年寄大田善兵衛殿ハ被仰越、九ツ時分出立、横目津曲仲右衛門殿同道ニ而差越候处、最早浦之嘉右衛門所に被参居候段承、直ニ致見舞候、行司遠矢半左衛門・竹木見舞日高休八・遠矢直八罷出候、焼酎・取肴・吸物・茶飯所差出候事、

寅九月三日雨天

一 今日内之浦に御越之筈候处、雨天故波見浦に滞在有之、今晚新右衛門ハ焼酎・取肴・飯飯差出候、

寅九月四日晴天

一 今朝内之浦に右半藏殿御越有之候、拙者共事ハ直ニ罷帰筈候处、新右衛門自船三満丸解船改之願并三盛丸舟^(寄郷士年)申出候由ニ而、拙者共申出見分相受候様、月^(寄郷士年)寄大田善兵衛殿ハ被相達候向ニ而、新三郎ハ申出候ニ付、相勤候、出役左之通、

一 川口詰山方下目付 〔野村殿〕 七郎殿・郷士年寄代拙者并横目津曲仲

右衛門殿・浦 〔役兼浦〕 平八・寄浦役富山新十郎・書役山之内甚次

郎・舟大工野元龍助ニ而候事、

寅九月六日雨天

一 拙者事御地頭所る麻袴用意ニ而御用之段、承知いたし候、尤郷

士年寄助日高八郎太殿事も同様被仰渡候間申談、近日中出府い

たし候様、月番郷士年寄市来連右衛門殿を被仰付候ニ付、直ニ

日高氏に差越候処、日高氏病氣ニ而候間、快氣之上申談、出府

可致段申談、罷帰候事、

寅九月七日晴天

一 唐船改動千田喜兵衛殿・唐船改若松次右衛門殿、今日野崎村に

御差入之筈ニ而候処、郷士年寄差支候間、可致代勤旨、月番郷

士年寄市来連右衛門殿を致承知、差越相待居候処ニ、明八日御

差入之筋ニ相延候段、夜入候而相違候事、

寅九月八日晴天

一 右御役々今日八ツ過御差入有之候、加世田郷士年寄川村宝藏・

同所横目相徳善太夫相付被參候、尤右役々見舞いたし候ハ、

直ニ白塩消焚御見分として被差越候事、

一 波見浦之者其所持之大小船取しらべ置候様、左候ハ、明日内

〔之浦力〕 に差越、波見浦に出掛見分可致段被仰付候、〔異国方〕

建山之内、枯松・倒松取しらべ置、山方役 〔之浦力〕 も出會いたし候

様、可取斗段被仰付候、拙者并郡見廻岩城勇八・浦役峯崎平八

ニ而致承知候、尤串良郷士年寄萩原与右衛門殿・浦萩原清八郎

事同席ニ而承候事、

一 今晚焼酎・取肴・吸物・龜飯お差出候事、

寅九月九日晴天

一 右御役々今日早天御出立、内之浦之様御越有之候ニ付、直ニ詰

居地方検者川上助五郎殿に致見舞候而釐に帰候、

一 月番郷士年寄市来連右衛門殿に昨日承知之趣申出候、左候而日

高氏に差越、明後十二日出府之筋申談、通天人馬お願出候事、

一 今晚御地頭飯屋に出會之通達、当番同役柏原伴之進殿を被申越

致出會候処、城山見舞 〔之浦力〕 ××太郎事不正之 〔之浦力〕 板お預り居、先

達而横目方及見分候、対役場甚不行届仕形致糺方候処、申分

無之段申出候、同役当番并山下氏・拙者ニ而候、津曲氏事ハ親

類之故、遠慮之段承居候、

寅九月十日曇晴天

高山郷士年寄助

御場預り唐物方掛

科銀掛引負銀掛

御庭方掛御鳥掛

日高八郎太代り

〔守屋〕
□□十太郎

右之通申付候、

九月 助之丞

一鳥目巻^(書)ノ五百文 御地頭様ニ

但 目録相添

一〇〇〇百文^(六カ)

取次衆ニ

一〇〇〇百文

〔御力〕
□役人方ニ

一〇〇〇百文

有馬伊右衛門殿ニ

外ニ

三百文 日高八郎太殿出分

右之通御請之御礼とノ料物を以進上、

一完取得差出候様、御取次衆ノ被仰付候事、

一明早朝鎌田五太右衛門殿方ニ罷出候様被仰付候、尤七ツ時分罷

帰候、日高氏同道之事、

一日高直助殿・郡山八左衛門殿事と内用ニ而拙者共不差越内ノ間

屋え相詰被居、今晚帰帆之事、

〔行間書込、朱筆〕

* 〔六カ〕
「完取得方之儀月番同役大田善兵衛殿ニ申置候」

寅十月朔日晴天

一今朝鎌田五太右衛門殿所ニ差越候処、湯之前^(六カ)□兵衛問屋願一件

被申候、外ニ御用無之、一刻相咄候而罷帰候、日高氏同道之事

一麻袴ニ而^(御)鳥見方え四ツ時罷出、取次^(衆)□より之書付差出候、尤

去丑秋畧方入□代之儀申上候処、追々畧方詰牧金左衛門方何分

可申達段、満尾喜右衛門殿ノ被仰候事、

一分七百七拾六文^(御)

綱差之

外 分九文 利分^(御)

休蔵

右ニ綱差休蔵ノ巻^(之カ)□□之由ニ而、任頼今日御鳥見方ニ差出

候処、右□違利掛ニ相成、拙者差出置候、御鳥見頭満尾喜右衛

門殿、外ニ御□人御鳥見寺尾庄次郎殿、上野八太郎殿・書役衆式

□御出席之事、

一鵜五羽程取得、御鷹方詰御鳥見衆御帰之節差遣具候様、満尾喜

右衛門殿^ヲ御頼之事、

一 銘酒五盃 代分三百貳拾貳文

一 肴一折 代分貳百文

右貳行本田家に致進上候、

一 兩種料三百文

右老行用聞代[□]藤右近殿に進上、

右者本田播磨守[□]二月御格式品能被仰付候為御祝儀

九ツ時分差越候而、右[□]通差出候、尤播磨守様御留主ニ而不掛

御目罷帰候事、

一 八ッ後木上家に差越候処、清右衛門様に掛御目候、清左衛門様

御事と一剋御他行之由ニ而不掛御目候、尤豎野に茶家買として

差越候得共、当分[□]頭無之、其俟罷帰候、

一 志道軒貳冊綱差之休藏方に相返吳様候、御鳥見寺尾庄次郎殿^方

御頼之故、御鳥見方ニ而相受取候事、

一 明二日朝五ッ時早め、嶋津矢柄殿宅ニ而誓詞被仰付筈候間、麻

袴ニ而無間違可被罷出旨、取次衆^方被仰越候事、

一 川原伊左衛門 老^方出良上納[□]と^〆差越居候処、今晚罷帰候ニ

付、高掛式^方良御訴詔一件、所以申越候事、

(行間書込、朱筆)

* 寅十月十二日高曾之進宅ニ而相渡候[□]

寅十月二日晴天

一朝六ッ半時分嶋津矢柄殿宅へ差越[□]候処、四ッ時分誓詞相済罷

帰候、尤日高氏同道ニ而差越候処、誓詞ニ不及段被仰^{早ク被力}罷

帰候、拙者実名[□]唱差支、良次ニ而^傍、

一千歳屋長[□]所に八後一剋差越、直ニ罷帰候事、

一 今朝上之園喜右衛門事、蔵請一件ニ付罷出候、尤右田半蔵并郡

山八左衛門^方書付式通致持参候事、

寅^上月三日雨天

一同役日高八郎太殿事、今朝鎌田五太右衛門殿宅に罷出候様、申

^{候放力}居候処、八郎太殿事今朝宗門方掛誓詞被仰付段^申来、差支

^{候放力}[□]、五太右衛門殿所に[□]拙者差越候処、有馬伊右衛門殿被参

候、承知[□]左之通、

一 高掛式^方銀之儀、如何御訴詔申上賦ニ而候哉、^{御尋力}[□]有之候ニ付、

少々取統候もの共々精々御貸上銀此渥差出無甲乙難渋之事御座

候間、都而御訴詔不申上候而不叶段申出候処、表向申事ニ而も無

之候得共、諸郷御訴詔御取上無之候、其儀我々乍存差出かた^く

候故、拙者致取次、郷々々精々^(取揃カ)候上、^(不)及手分、来三月比迄延御訴^(候)上上候様取斗置^(候)付、高山之儀も各御用相済候ハ、被罷帰、精々取揃、来ル廿四五日比与頭ニ而も右金子致持参候而、残分延御訴^(候)上上候儀可然と被仰候^(二)付、少々取続候もの右申上候通之事ニ而、込入次第御座候間、得と八郎太にも申談、何様ニも^(申)頼可申上段申上置、五ツ時分罷帰候、尤今日八ツ^(後カ)日置屋敷に参候様、問屋伝右衛門に御伝言有之候ニ付、直ニ相届候事、

一 野崎村鹿兒嶋領分之もの共三人、部賣方とノ今朝罷出候、尤波見浦之新右衛門当分鹿府に詰居之由ニ而、五ツ時分問屋に一剋参候事、

寅十月四日晴天

一朝五ツ時分石燈爐通^ル木屋町之辺迄諸人頼物買入方とノ差越罷帰候処、客人有之相咄、九ツ時分^ル石燈爐通之辺に差越候、八ツ時分ニ罷帰候事、

一 上之蘭^(二)喜右衛門^并野崎村之もの共式人、朝船より帰帆いたし候事、

一 高山郷士年寄中宛書之書付咄通、取次衆より被遣候由ニ而、伝

右衛門^ル相受取候事、

一 今晚波見浦之新右衛門、役進祝儀とノ罷出候、

寅十月五日晴雨天

一 伊佐敷道測殿、八ツ時分一剋問屋^(江カ)被参候、

一 野崎村之もの共三人、上見証文申受とし^(二)問屋へ罷出候事、

一日高氏帰之筈ニ而、吉井氏脇指一本^(次カ)取^(次カ)衆之書付咄通、^(氏)伊東氏に^(被カ)遣葉種入袋沓ツ相頼候事、

寅十月六日晴雨天

一 五ツ時分鎌田五太右衛門殿所に差越候処、高掛式刃之儀と、罷

帰候上精々取揃、当月廿四五日比郷士年寄之内^ル致持参、残分

延訴^(候)上上候向可被宜段被仰候ニ付、拙者事、御鳥掛御受不相

済候得共、以後以^(之通カ)御受可仕候間、都^(而カ)宜様申上被置、御暇

可被下旨申上候処、申出^(二)被仰付、五太右衛門殿同道ニ而罷

帰候処、八郎殿事^(太也)ハ昨日雨天ニ而出帆不相調候ニ付、高掛式刃

良之訴^(被)聞合方申談、右五太右衛門殿に六^(二)文かへ之ふし一簾、

大番頭座書役衆に^(會衆得共カ)百文かへ之煙草致進上、右八郎太殿大番座

書役衆所^ル五太右衛門方^(殿)に被差越候折、中途ニ而出^(二)、

拙者承候向之事ニ而、兩人共致暇、五太右衛門殿に相別申候、

日高氏同道ニ而矢野氏に立寄候而、帰掛買物おいたし罷帰候処、
四ツ過ニ相成候事、

一今朝野崎村之もの共屯人致出帆罷帰候、

一八ツ時分野崎村之もの式人ニ而、前田村之龜次郎申受乙名呉も
の屯人召列罷帰候、

一日高氏同船ニ而五ツ時鹿府を致出帆候、

寅十月七日晴雨天

一五ツ時分古江に着船いたし、問屋に相付、直ニ人馬老足雇入、

四ツ時分出立、罷帰候処ニ七ツ時分宿元に着候、日高氏致同
道候、尤拙者通夫召列候、日高氏通夫残置候事、

一明八日早天人馬老足、我々共両人荷物負方と古江に遣候様、

富山村に申渡候事、

一分三百四拾文

右も急成御用ニ付、人馬雇入罷帰候ニ付、古江を高山迄馬老足

雇入駄賃分と相払候事、

(行間書込、朱筆)

*「寅十月十六日富山村を相受取候」

寅十月八日雨晴天

大隅農村社会経済史料 (三)

一四ツ時分月番同役大田善兵衛^(立寄)所^(立寄)に差越、昨日罷帰候段申出
候、左候而日高氏に直ニ差越候処、御鳥見役牧金左衛門殿野町
喜助所を今朝宮下村に御転宿之段承、^(直力)ニ野町に差越、御鳥見
衆に致見舞候処、野廻り^(立寄)綱差共参居候、尤日高宗次郎所^(立寄)に
罷帰^(立寄)事、

覚

九月廿七日を十月八日迄

日数十一日

往来

野崎村大村門

与兵衛

右も此節御地頭様^(江縣)御用被仰渡、鹿府致参上候ニ付、通夫

として右之もの召列候間、先例之通可被申渡候、以上

郷士年寄助

守屋十太郎印

寅十月八日

郡見廻衆中

覚

馬老足

口引有

賃分三百四拾八文

右此節御地頭様へ麻袴御用被仰渡、鹿府致參上、急成御用ニ付、罷歸候間、古江へ高山迄右之通雇入を以罷歸候間、雇賃分先例之通可被申渡候、以上、

郷士年寄助

守屋十太郎印

寅十月八日

郡見廻衆中

一古江に殘置候荷物今晚相届候、尤日高氏通天六之丞相付候而罷出候、左候而拙者通夫与兵衛品物・米通取落申候ニ付、以後以便取寄寄遣可申候段、右六之丞へ申出候事、

一野廻日高曾之進・柿元万右衛門事、今晚役進祝儀として罷出候事、

寅十月十日晴天

一宮下村ニ而受取合有之、彼方に致出勤替候處、四ツ時分月番同役大田善兵衛殿所に致出會候様、通達有之、差越候處、郡見廻矢神善左衛門、波見村庄屋峯崎平八參居、追々同役日高八郎太(殿)・(應)目日高新左衛門殿出會有之、成行左之通、

一波見村上之蘭門市兵衛と申もの、(去)々々年之時分を行衛不相知、近郷尋方へ頼越置候もの之由候處、昨九日夜半過、柏原浦方へ波見浦役方致酒託不及手所へ、親類召列受取。と差越候様、柏原浦役へ問合有之候折節、名主共相集居候ニ付、則名平後蘭之太郎に右之親類新右衛門・平右衛門兩人相付差遣候處、柏原年行司所に格護有之、親類共相受取、兩人ニ而肩ニ引掛罷歸候、中途相離候得共、列崎之辺より漸々相止、波見に渡着候處、難儀ニ相成、薬用おいたし候得共、終ニ相果候段申出、致吟味候處ニ、病死ニ相違無之候得共、右通申出候ニ付而ハ、詰居締方横目衆迄申出置候而可然申段、拙者并横目日高新左衛門殿同道ニ而波見浦に差越候而、昨夜柏原に受取方と差越候名主并親類相札候處、右之申出之通病死ニ相違無之、親類共付添居候事ニ而不案之儀も無之候得共、庄屋并右之名主・親類召列、柏原に差越候處、年行司所に浦役出張之由候間、昨夜面(マ)働ニ相成候為礼、庄屋差遣、締方衆御詰居之所も承合候様申付候處ニ、我々共ニも一剋立寄候様承、日高新左衛門殿同道ニ而立寄候處、横目木之脇新之助殿・浦役萩原清八郎詰居之故、昨夜高山之もの參居致酒託旁御面働ニ相成候段、御札申述、締方

衆御詰居之所相尋候処、出物藏に締方横目猿渡彦八殿御詰居之

〔^(殿)承、茶一貼ニ而直ニ相立、出物藏に差越候、中途ニ而津曲仲

右衛門殿に出逢、同道ニ而差越候而締方横目猿渡彦八殿に掛御

目、昨夜御面勤ニ相成候由、右新之助殿杯承候ニ付、御礼申

上候、左候而右之市兵衛事ハ相果候段申出候処、親類共相受取

候上之事候ハ、親類共ハ如何相考居候哉之旨御尋有之候ニ付

親類共相受取候迄致醉^(注)ニ而御座候ニ付而、病死ニ相違無

御座と相考居候由ニ而、其段私共方にも承届居候段申出候処、

病死ニ付而不及見分段被仰、直ニ致暇候、尤我々共事と波見

に人馬參居候ニ付、津曲仲右衛門殿に相別れ、波見浦之様相渡

直ニ罷帰候処、日入時分ニ帰着候、新左衛門殿同道之事、

一右帰掛、守屋求馬城戸ニ而月番同役大田善兵衛殿に出逢、締方

横目衆^(注)出候成行届^(意)候、

寅十月十二日曇雨天

一富山新十郎事、仰止科良上納一件ニ付、無調法之儀有之、昨日

の郷士兩人を以差扣申出候事

一野廻り日高曾之進所ニ而御場講有之、七ツ時分差越、夜半過

罷帰候、尤川崎詰御鳥見牧金左衛門殿・拙者・野廻^(野)元八次郎

・柿元万右衛門・柏原善右衛門其外綱差共ニ而候、

寅十月十三日晴天

一柏原肝付与御藏ニ而俵例^并御条書拜聞被仰付管候間、致出会候

様、肝付与下代鎌田一介殿被仰越、五ツ時分出立、差越候処、

肝付与御藏ニ而俵列有之、出物藏ニ而御条書拜聞被仰付候ニ付

印形帳差出、直ニ暇いたし、一剋立宿に差越、中飯相仕舞、

罷帰候処、暮時分帰着候、拙者并横目字都宮休藏殿・用水掛郡

見廻加役小牧廻右衛門・波見村庄屋・在役、野崎村在役、新留

村在役、前田村庄屋・在役ニ而候、尤御代官梅北大右衛門殿・

取締平瀬孫太夫殿、外ニ耆人、締方横目伊東新之丞殿・書役耆

人ニ而候、左^(候)而大崎・串良役々罷出候事、

一東三ヶ在取納入米御届書并取納方掛之御届書、昨夜仕出候、尤

東三ヶ在掛之儀と地方検者梅北良右衛門殿・拙者・与頭柏原伴

之進・郡見廻右田半藏ニ而候事、

一西四ヶ在取納方掛之儀と、地方検者川上助五郎殿・郷士年寄日

高八郎太殿・与頭津曲次五殿・郡見廻岩城勇八ニ而候事、

寅十月十四日曇雨天

一取納入米届申出候様、串良詰御代官梅北大右衛門殿被仰越候、

出役月番同役大田善兵衛殿を昨夜被遣候ニ付、写取、今朝西取納方掛郷士年寄日高八郎殿(大廳)に遣候、写之儀ハ郡見廻右田半藏方へ遣候事、

一 串良上小原詰御鷹匠頭見習尾之上嘉兵衛殿・御用部屋書役与倉彦八殿・御鳥見寺尾庄次郎殿・御鷹部屋書役宅人・御鷹匠拾人斗・串良野廻萩原正八・文地市正相付、波見浦に御廻勤有之候ニ付、五ツ時分を拙者并横目津曲仲右衛門殿・野廻野元八次郎致出勤、今晚五ツ時分帰着候、休藏・金次郎召列候事、

一 富山新十郎差扣申出候儀ニ付而も、此節迄を致有免候而□如何可有之哉、存寄無之候ハ、月番前ニ而可相済旨、月番同役衆を問合之書役波見浦に致持参候ニ付、存寄無御座談申越候事、

一 嶋津図書殿持百姓男女拾人年氣暇(季)之願書一通、新留村庄屋方を申出候由ニ而、月番同役方を次書相認、被遣候ニ付、致印形候、郷士年寄・郡見廻連名ニ而候事、

寅十月十五日晴天

一 四ツ時分同役市来運右衛門殿所并河俣龍藏殿所に差越候、通掛吉井氏に立寄候事、

一 前田村川崎詰御鳥見牧金左衛門殿、串良に転宿有之候ニ付、同

道ニ而、串良上小原詰御鷹方詰御役々衆に見舞之段、横目・野廻り申出候ニ付、八ツ時分出立、川崎之次郎所に差越候所、最早御立跡ニ而、直ニ串良之様差越、下小原ニ而追付、同道いたし、御鷹匠頭見習尾上加兵衛殿・御用部屋書役与倉彦八殿・御鳥見寺尾庄次郎殿御旅宿に見舞、皆々掛御目、夜入候罷帰候(而脱之)、尤津曲仲右衛門殿・柿元万右衛門・日高曾之進・柏原善右衛門同道之事、

一 今晚野町取除模合式日ニ而、仁平次所に差越候、山之内林之進殿・拙者・津曲仲右衛門殿・垂水家来肝付十郎次・町伊三次・権右衛門ニ而候事、

寅十月十六日晴天

一 右模合□□も終日相掛、夜入候、皆々罷帰候、

寅十月十七日晴天

一 同役大田善兵衛殿・与頭山下彦一殿事、高掛式刃良訴詔と八日出府之筈ニ相談有之、印紙四枚当番方を被遣候ニ付、印形いたし候、尤郷士年寄五人、与頭三人連名ニ而候事、

寅十月十九日晴天

一 新留村花牟礼に楠木宅本、野崎村上原に楠木宅本船木用と波見

浦之小太郎申請居、出道見分之願申出候段、同役月番市来氏ら及
間合、拙者立会致見賦候、横目津曲仲右衛門殿・郡見廻用水掛
小牧惣右衛門二而候、新留村名主菰右衛門・野崎村庄屋并名主
新吉罷出候、小太郎手伝吉藏罷出候二付、野廻方に相付、御鳥
見衆に申出候様申達候、尤地方検者衆鹿屋ら御帰有之候ハ、
我々ら可申出置候二付、其節罷出候様申達置候事、

寅十月廿日雨天

一四ツ時分郡見廻右田半蔵同道二而、尾之下之儀助所え差越、請
取合いたし、掛郡奉行衆并肝付表御仕登差引御代官衆に入米御
届申上候、左候而今晩五ツ時分罷帰候、尤波見村庄屋峯崎平八
・名主太郎・野崎村名主吾人・新留村名主儀助（二而候）、取納検
者梅村良右衛門殿事ハ先達而ら鹿屋上見内見方に被差越、未御
帰無之候事、

一野崎村之儀ハ毛頭入米無之、外而在之儀も入米相少候二付、稠
敷催促いたし、来ル廿五日間究之段申達置候事、

寅十月廿一日晴雨天

一月番同役方ら御地頭飯屋へ出会之通達有之、九ツ時分差越候処、
高掛式奴良来ル十一月ら利村二相成筈之段、高奉行所ら被仰渡

大隅農村社会経済史料 (三)

候間、如何可致哉之旨、相談有之候、右二付而も同役大田氏訴
詔とへ出府之事候間、彼方へ写差遣候而可然申談候、月番市来
運右衛門殿・日高八郎太殿・与頭柏原伴之進二而候、
一 地頭横目安庭権左衛門殿・山下彦太郎殿出会有之、横目児嶋孫
八殿代り志らへ方之段承候得共、河俣氏出会無之故、取止之事、
一 山方一件之儀有之由二而、行司竹木見廻出会之事、

寅十月廿二日曇晴天

一 高輪御付御庭方藤田郷右衛門殿、付役吾人被召列、鹿屋郷之原
より前田村川崎之次郎所に御差入之筈二而、九ツ時分ら六兵衛所
に差越、相待居候得共、差入無之故、同宿与頭津曲次五殿・御鳥
掛迫田金八に頼置、天神村之孝右衛門所に差越候処二、同役日
高氏・郡見廻岩城勇八參居候得共、地方検者川上（助也）郎殿末鹿
屋内見方ら御帰無之、皆々相待居（候力）、日入時分御帰有之候、
左候而、今晚五ツ時分迄相咄罷帰候、日高氏事ハ早帰宅之事、

寅十月廿三日晴天

一 横目児嶋（孫）郎八代り役しらへ方二付、早天致出会候様、通（達）有
之、五ツ時分月番同役市来氏に差寄、外方出会之上、しらへ方
いたし候、同役日高八郎太殿・地頭横目安庭権左衛門殿出会有

之候、同役河俣氏事ハ後田村獄に在勤之處、足痛ニ而出会不相調候間、相頼段被申越候趣承候事、

一 右しらへ相済、セツ時分罷歸居候處、高輪御付御庭方藤田郷右衛門殿付役柳田甚左衛門被召列、只今前田村川崎に御差入之段、宮下村之金兵衛ヲ申出候ニ付、直ニ差越致見舞候、尤拙者并与頭津曲次五・御鳥掛迫田金八・桑畑金左衛門ニ而候、左候而今晩五ツ時分罷歸、直ニ模合座日高曾太郎所に差越候事、

一 串良上小原詰御提銅方御役々衆、明廿四日野町に御廻勤之段申来候ニ付、宿手当本申渡候、尤拙者事ハ外御用ニ付、出会不相叶候ニ付、出会有之不都合無之様可被取計旨、横目・野廻方に申越候事、

一 右模合出会人数宮田十助殿・吉井宗太郎殿・吉川長流・大田泉龍・安庭権左衛門殿・始良郷士田野辺宇助殿并日高曾兵衛殿、其外略ス、尤始良町之金右衛門と申もの本圖當リニ而、花陶之内白陶壺ツ当候事、

寅十月廿四日曇晴天

一 五ツ時分前田村川崎詰高輪御付御庭方藤田郷右衛門殿旅宿に差越候處、迫田金八・桑畑金左衛門參居候、四ツ時分御出立ニ而

内之浦に御越有之候、荷物之儀波見に遣置候様被仰候ニ付、庄屋へ申付候、左候而帰掛市来氏に寄候處、下之門之喜次郎先達而逢盜候馬、福嶋に買渡候哉ニ承付候段、申出候ニ付、只今出會之通達申越咎之段被申■承、相待居候得も、追々出会有之、吟味いたし候上、^(忠)目津曲仲右衛門殿緒方横目衆に被差越候、尤出役同役日高氏・横目右仲右衛門殿ニ而候事、

一 右津曲仲右衛門殿被罷歸候ニ付、出会いたし候様、暮時分月番同役々被申越、差寄候處、今日吟味之趣、串良唐仁町詰緒方横目伊東新之丞殿に相談被致候處、他領に応答ニ付而は、御上御面倒ニ相成事候間、志布志之もの共ニ而も相頼、喜次郎同道ニ而差遣、内々ニ而馬牽越候様、取計有之候而可然候、若各に難渋之儀も有之候ハ、詰居緒方横目伊東新之丞任差図、右之通取計候段可被申出、尤為念^(一)「大庄屋宛ニ而引合之書付相認為持可^(二)候、右書付之儀ハ内々ニ而、^(三)越方外相調置差出可然段、委申付可被遣旨被申候趣承、右ニ付而も、伊東新之丞殿仰之通取計候而可然申談候、月番同役并日高氏、横目津曲^(四)右衛門^(五)天神善左衛門ニ而候事、

一 右喜次郎親子差越段申出候ニ付、野町伝左衛門・新太郎名前ニ

而通手形相認候、尤引合書付之儀□高鍋領福岡大庄屋宛書ニ而薩州領内高山役人と相記候、左候而五ツ時分引取候事、

寅十月廿五日晴天

一九ツ時分尾之下茂助所に差入、東三ヶ在請取合間究いたし候、那見廻右田半藏出合ニ而候、尤野崎村庄屋上田直次郎・名主伊助・波見村名主孫・新留村名主太郎八罷出候、左候而今晩六ツ過引取候、拙者事々帰掛宮田氏氏祭請誘に寄候而罷帰候事、

一日入時分波見村名主治右衛門罷出、取納一件ニ付、内□之趣有之、檢者衆に相談いたし度儀ニ而候処ニ、檢者梅北良右衛門殿事御用ニ付、志布志御廻勤有之候得共、最早彼方相済、串良池之原詣御親父旅宿に御滞在之程合も不相知候ニ付、差越、御滞在共ニ而候ハ、波見村之様御帰被下度段申出、直ニ其届申出候様、右治右衛門に申達候、那見廻右田半藏同意之事、

寅十月廿七日曇天

一九ツ時分分出立、野町半兵衛所に一刻立寄、波見村旅宿荒瀬之休太郎所に差越候而、暮時分御檢者旅宿荒瀬之武吉所に差越候処、志布志々御帰無之候、^(元)那見廻右田半藏参候ニ付、夜入候而、拙者旅宿に罷帰候、右半藏旅宿之儀も荒瀬之次郎所^(二番候カ)事、

大隅農村社会経済史料 (三)

一庄屋峯崎平八・名主平後園之太郎罷出候事、

寅十月廿八日晴天

^(申)一□良池之原に御仕登差引御代官梅北大右衛門殿^(御註)居ニ而候処、御檢者衆事々右之御子息ニ而候故、昨日彼御旅宿迄御越有之、御一宿之段承、今朝案内差遣候処、昨日と着無之、今日と相違無之賦と相考候間、明廿九日案内罷出候様、被仰候段、今日九ツ時分罷帰申出候事、

寅十月廿九日晴天

一郡見廻右田氏ハ今朝早ク麓に罷帰候段、承置候処、八ツ時分御檢者梅北良右衛門殿御帰有之、御案内に差越候もの申出候ニ付、直ニ右之御旅宿^(荒瀬)□之武吉所に差越、相咄候折、右田氏事も罷出候、尤庄屋峯崎平^(八)□・名主平後園之太郎罷出候、左候而波見村^(之カ)作人共^(主)□之□与直納蔵替々願出度段、去ル廿五日同村名^(主)治□衛門^(之カ)郡見廻に相付、内意申出候趣有之候ニ付、如何申付可然哉之間、御檢者衆に内々相伺候候、鹿兒嶋給地之儀と遠方之事ニ而、作人共々相嫌善候処、直納いたし度段申出候ニ付而ハ、如何様入米沙汰事ニ而も無之哉と相考候間、肝付与柏原御蔵科取并出物蔵科取召呼、入米沙汰事承候上、何分ニも可申達候間、各事も相待被居候様被仰、右科取兩人罷出候様被

申越候ニ付、相待居候処、料取兩人今晚五ツ時分罷出候故、入米沙汰中被聞居候処、例年之通相替儀と無御座段申出候ニ付、右ニ付而と余り作人迷惑之儀も不相見得候間、明日は為致取納、其上ニ而又々申出儀も有之候ハ、其節^{（度）}度段、御檢者衆が承候ニ付、明日と都而致取納候様申達候、左候而半蔵同道ニ而旅宿に罷帰候事、

寅十月晦日晴^{（力）}天

一野町之伝左衛門・新太郎鶴戸致参詣候処ニ、先達而新留村之喜次郎逢盜候馬見当り候段申出、右ニ付相談不致而不叶儀有之候間、早天致出会候様、月番同役市来氏が之書付日出時分相達、直ニ半蔵召呼、拙者罷帰候様^{（方）}相達候間、跡ニ御用之儀有之候ハ、可取計旨申達、半蔵同道ニ而御檢者衆に差越、右之趣申出、直ニ罷帰、吟味之趣左之通、

一帰掛直ニ市^{（家）}氏に致出会候処、野町之伝左衛門・新太郎鶴戸致参詣候折、福嶋中町助次郎と申もの所に繋居候を見当、盜馬之段相達候処、^{（方）}良下小原之もの之由ニ而、牽越候ニ付、拾三ノ五百文買入置候得共、盜馬相達於無之と、志布志^{（方）}之毛付同道ニ而被参候ハ、右之馬相渡可申段、承候得共、志布志御番所

牽通方不相調候ニ付、其俟罷帰候段。申出候ニ付、右ニ付而と、伝左衛門召呼、承届相達無之ニ付而と、成行を以得御差図候而可然筋申談候而、八ツ時分過拙宅に罷帰候、尤出役日高氏・横目宇都宮休藏殿・津曲仲右衛門殿ニ而候、郡見廻矢神善左衛門罷出候事、

寅十一月朔日晴雨天

一^{（立力）}ツ時分宿許出立、波見村に差越候処、平後園ニ而雨降出候ニ付、名主太郎所に一^{（立力）}剋寄、雨宿いたし、相止候而直ニ御檢者旅宿に差越^{（方）}相咄候処、半蔵事も罷出候、左候而、拙者事ハ旅宿に罷居候処、栢楮掛隈元新八罷出候事、

一九ツ時分御檢者於旅宿請取合いたし候得共、届書本不相濟候、尤御檢者衆・拙者・半蔵ニ而候、波見村庄屋峯^{（方）}平八・名主孫・野崎村庄屋上田直次郎・名主新吉・新留村名主甚左衛門参候、左候而今晚五ツ時分引取候事、

寅十一月二日雪晴天

一郡方并掛郡奉行衆・御代官衆に昨日請取合^{（御）}之^{（御）}届書今朝仕出候、御檢者衆・拙者・半蔵ニ而候、^{（方）}飯屋に差越候処ニ、暮時分旅宿一八ッ過御檢者衆同道ニ而^{（方）}飯屋に差越候処ニ、暮時分旅宿

に致着候、御檢者衆事ハ権兵衛二男所ニ而候、拙者事ハ彦所ニ而候、尤郡見廻半蔵□□平後園之上致□□、跡る參筈申談置候

寅十一月三日晴雨天

(為致力)

一□□魚取候処ニ少々取得、暮時分罷帰候、□□大右衛門・用水下役□□衛門・耕作・けさ太郎罷出候、尤四ツ時分、右田半蔵・峯崎平八・名主治右衛門同道ニ而罷出候、明日犬山之手當いたし候事、

寅十一月四日晴天

一郡見廻・庄屋・名主其外、早天を致登山、終日犬山□□候処ニ

(有之)

鉄砲式筒打候得共、取得無之、暮時分□□いたし候、御檢者衆旅宿ニ而五ツ時分迄相咄、拙者并半蔵旅宿に罷帰候、尤庄屋・名主事ハ今晚宿元之様罷帰候事、

寅十一月五日晴天

一御檢者衆・拙者・郡見廻列立、四ツ時分辺田飯屋を出船いたし九ツ時分波見役所之下に船いたし、役所に立寄、七ツ過荒瀬之様差越候折、官之□之早右衛門走出、引留候ニ付、彼所に一剋立寄、夜入候而荒瀬之治右衛門所に任招差越、五ツ時分皆々旅宿に相着候事、

大隅農村社会経済史料 (三)

寅十一月六日晴天

一今日野崎村に転宿之筈ニ而、四ツ時分荷物付出、直ニ御檢者衆并拙者・郡見廻同道ニ而鶴田之太郎所に差越居候処、用水掛小牧惣右衛門罷出候ニ付、又々同道ニ而、蔵屋敷之伊助所に差越相咄候処、八ツ時分ニ相成候ニ付、右役々并庄屋・名主・用水下役列立、川之塩消入土手つき添致見賦、荒瀬之頭并手両所見賦相済、帰掛名主助□所に相招□得共、見賦不相济候ニ付、立寄方相断、荒瀬打出之頭、塩入底□□致見賦候処、暮時分ニ相成候ニ付、藤□鶴川よけ之儀□□見合致見賦候而可然申談、直ニ野崎村之様差越、夜入候而御檢者旅宿新吉所に着いたし、一剋相咄、皆々旅宿に罷帰候、拙者伊助所、半蔵事ハ門屋之藤次郎所ニ而候、尤右半蔵事ハ惣右衛門。道ニ而、今晚宿許に罷帰段承置候事、

寅十一月七日雨天

一七ツ過右田半蔵麓を參着候、尤名主平兵衛相動候、今日も無事ニ而候事、

寅十一月八日晴天

一波見浦之小太郎申請楠木式本、去月十九日所役々出道見分いた

し置候処、今日も出方いたし度段^(申カ)□出候ニ付、御檢者衆に右之趣申出候上、差免候事、

一新留村取納入米相少候ニ付、昨日申渡置、七ツ時分より請取合いたし候、尤御檢者衆・拙者・郡見廻・名主休右衛門罷出候、左候而当村名主伊平次相勤候事、

寅十一月九日晴天

一御檢者衆事も四ツ時分柏原出物藏に入米改方として被差越、夜入時分御帰有之候、尤名主新吉相勤候事、

寅十一月十日晴天

一四ツ時分請取合いたし、七ツ過相済候、尤入米相少候ニ付、今日之請取迄相加へ、明朝御届申上候而可然申談候、尤新留村之儀も名主不殘今朝召寄、催促方糊敷申付、請書為差出候、左候而波見村廻限甚及遲滞、庄屋^井名主□に取締申付候様、郡^(思)廻に申達候、御檢者衆・拙者・郡見廻・当村庄屋^井名主伊助ニ而候、今日も拙者旅宿ニ而相究候事、

寅十一月十一日雨晴天

一掛郡奉行衆并御代官衆に昨日入米御届書差出候、尤□ツ過御檢者衆・郡見廻同道ニ而新留村に致転宿候、御檢者衆旅宿尾之

下之茂助所に日入時分着いたし候、夜入候而拙者^井郡見廻事ハ釐に罷帰候、旅宿上之蘭之權藏所ニ而候事、

寅十一月十二日晴天

一四ツ時分御檢者衆御旅宿に差越候処、同役川上助五郎殿前田村之勘助所に昨日内之浦を被罷帰候段、承候ニ付、一刻差越度段被仰付候ニ付、同道ニ而差越、掛御目候、今日中原之様被成転宿筈之由承候、九ツ時分尾之下に罷帰候処、郡見廻半蔵參候、七ツ過拙者旅宿權藏所に罷帰居候処、御檢者衆・郡見廻被參候、一刻相咄被罷帰候ニ付、拙者事ハ宿許に罷帰候事、

寅十一月十三日晴天

一五ツ半時分御檢者衆御旅宿に差越候処ニ、郡見廻參居候、尤御檢者衆事ハ鹿屋鹿倉餅山見分とノ四ツ時分出立被差越候ニ付、半蔵同道ニ而釐に罷帰候、且来春御普請場見賦いたし置候様承置候事、

寅十一月十四日晴天

一四ツ時分郡見廻右田半蔵同道ニ而、在役共召列、永山^ノ下リ野崎村境迄、新留村之内不殘御普請場見賦相済候、用水掛小牧惣右衛門事と中村蘭を致同道候、左候而拙者旅宿上之蘭之權藏

所に暮時分立寄、五ツ時分麓之様龍歸候、郡見廻・用水掛同道之事、

寅十一月十五日晴天

一五ツ時分尾之下茂助所ニ而請取合いたし候、夜入候而相濟候、間究ニ而御屈不^(申)上候、拙者・郡見廻・新留村名主林右衛門・野崎村庄屋^并名^(主)伊平次・波見村名主^(治)右衛門ニ而候、尤用水掛小牧惣右衛門能出、御普請場見賦致帳首尾候事、

一宮下村末吉門名頭源左衛門男子鉄太事、無行跡ニ有之、座敷内取捨召入度段、親類・与中之者共る庄屋・在役に相付、願申出候向ニ而、月番同役市来連左衛門殿^次書相認被差廻候ニ付、致印形候、

一六ツ半時分尾之下^直ニ野町取除^(候)も合座仁平次^(所)に差越候処、津曲仲右衛門殿・垂水家中肝付十郎次・町伊三次・權右衛門参居候事、

寅十一月十六日曇晴天

一取除も合首尾不相濟候得共、相頼置、四ツ時分^(地)御頭飯屋へ致出会候処、桑畑武兵衛・竹之下善左衛門^名藥師堂造立之由ニ而、勸化之願申出、差^(候)而可然申談候、其外吟味有之候得共

大隅農村社会経済史料 (二)

不相決候、月番同役市来氏・大田氏・河俣氏・日高氏・拙者・与頭津曲氏・山下氏・郡見廻矢神氏ニ而候、暮時分引取候事、

寅十一月十七日晴天

一九ツ時分旅宿上之園之權藏所に差越候処、郡見廻右田半藏能出候、尤御檢者衆事、昨日鹿屋^名串良池之原に被差越、今日尾之下に帰着之段申来候ニ付、七ツ時分迄相待居候得共、遅方ニ相成候儀も難斗相考、郡見廻同道ニ而、波見村平後園に致^(候九)転宿候、日入時分宿着いたし^(候九)、尤名主治右衛門相動候事、

寅十一月十八日晴天

一郡見廻右田半藏事ハ犬山^名相談ニ而、九ツ時分^名辺田に差越候、尤御檢者衆事ハ七ツ時分下ケ原權左衛門所に宿移有之候、尾之下茂助相付能出候、左候而、今晚平後園之甚^(所)相招候ニ付、右之御檢者衆同道ニ而差越、五ツ時分迄相咄候事、

寅十一月十九日晴天

一鹿府便聞合具候様、御檢者衆^名承候ニ付、月番郷士年寄市来氏に聞合方之問合申越候処、明廿日日高六太郎出府之段、今晚五ツ過返答有之候ニ付、今日相勤候名主太郎に為持、出府便右之通申来候段、御檢者衆へ申上候、右ニ付夫唐人致手当候段承候、

一家督座問代リニ付、出会之願申出候由ニ而、明廿日御地頭かり屋へ致出候様、月番同役方へ問合有之候事、

寅十一月廿日曇雨天

一今日、米皆済之賦ニ而請取合いたし候得共、都而不相済候ニ付稠敷催促申付候、然共肝付与御藏^{之方}儀、下代衆病氣ニ而取納無之段、波見村名主へ申出候ニ付、御届申上管候、尤御檢者衆・拙者ニ而候、新留村庄屋兒玉直十郎・名主權太郎・野崎村名主新吉・波見村名主伊助罷出候、四^つ□□^つ暮時分迄相掛候事、

寅十一月廿一日晴天

一四ツ時分御御檢者衆、拙者旅宿甚太郎所に被參居候処、横目津曲仲右衛門殿昨日船改と差越、帰掛之由ニ而一剋被立寄候、左候而今晩四ツ時分、郡見廻右田半藏并当村名主治右衛門辺田へ罷帰候、猪之子一丸取得候外ニ鹿之枝式ツ犬喰残り見当候由ニ而一枝持帰候事、

寅十一月廿二日晴天

一四ツ時分御檢者衆御旅宿に郡見廻同道ニ而差□一昨^{（廿日）}□致受取合候入^{（米）}□之御□郡方□掛郡奉行衆・御代官衆に申上候、尤夜入候而銘々旅宿に罷帰候、名主治右衛門ニ而候、

寅十一月廿三日曇天

一廿四日限鹿兒嶋立申渡置候処、出立相調文ニ而無之、五七日延之願、在役共へ郡見廻に相□申出候ニ付、九ツ時分郡見廻同道ニ而御檢者衆に差越致相談、来ル廿八日出立申付候、左候而暮時分銘々旅宿に罷帰候、名主伊助相動候事、

寅十一月廿四日晴天

一明廿五日御手網方掛見聞役衆、波見浦に差入有之筈之由ニ而、拙者へ相動候様、月番同役方へ昨夜問合有之候得共、請取合之賦ニ而難迎候ニ付、今朝右田半藏麓に罷帰候序を以、明日出勤難叶段、口達を以返答申越候、尤名主太郎相動候、

一指宿詰御鳥見頭衆へ御用□被仰渡候処、在勤先ニ而取計□兼候□別紙相添、月番同役市来運右衛門殿□ニ頼越候事、

寅十一月廿五日^{（寒）}晴天

一御檢者衆事ハ八ツ時分高山与御藏に被差越候、尤請取合之儀と跡ニ而相調筋^{（取相）}□談置、郡見廻右田半藏相待居候処、九ツ時分罷出候ニ付、直ニ相始、暮時分ニも相仕舞候得共、御檢者衆御帰可有之と相考、待入候得共、五ツ時分迄御帰無之故、銘々旅宿に罷帰候、左候而、名主孫太郎残置候処、四ツ時分罷出、

今晚御帰無之段申出候事、

一 野崎村庄屋上田直次郎・名主伊助・新留村名主本城之太郎右衛門・波見村名主孫太郎ニ而候事、

寅十一月廿六日晴天

一 四ツ時分御檢者衆旅宿に半蔵同道ニ而差越^{（同カ）}請取合いたし候処、九ツ時分御檢者衆事も御帰有之候、尤名主治右衛門相勤候、左候而、七ツ時分皆^{（同カ）}道ニ而、新留村に致転宿候、御檢者衆^{（上カ）}之蘭^{（抽）}權藏所、^{（抽）}者茂助所、半蔵正五郎^{（前）}ニ而^{（候）夜ニカ}入候而半蔵同道ニ而麓に罷帰候、

寅十一月廿七日晴天

一 今日夕座相立、毎日究之賦ニ而、拙者并半蔵事、御檢者衆旅宿に差越候処、串良詰地方檢者川上休藏殿九ツ時分被參、西取納方詰郷士年寄日高八郎太殿事も被參、七ツ過迄被相咄候ニ付、請取合^{（之カ）}儀は取止、諸在之もの共暇申渡候、尤夜^{（入）}候而^{（拙者事カ）}ハ旅宿に罷帰候、半蔵^{（麓カ）}麓之^{（麓カ）}帰候、当村名主四郎助相勤候事、

寅十一月廿八日晴天

一 郎家作立方之管ニ而候故、拙者事と早天御檢者衆に差越、今日請取合之儀と頼置、半蔵不罷出内、麓に罷帰候事、

大隅農村社会経済史料 (二)

一指宿詰御鳥見頭衆を被仰渡候、召上御用完取得候ニ付、^{（天カ）}出方として老割^{（判カ）}致出会候様、月番同役市来氏を七ツ時分問合有之、

致出会候処、小三才猪一丸・大三才鹿一丸・三才鹿一丸取得有之候ニ付、御鳥見頭衆を内状を以被仰越向ニ而、送状之儀は式通ニ相認、郷士宰領、宿次・時付を以、指宿御湯治先に差上候、尤鹿丸完^{（天カ）}一丸差出候様被仰渡候得共、^{（御カ）}候ニ付、追々狩方仕、取得申候ハ、早速差上可申段、申上候事、

寅十一月廿九日晴^{（天）}

一 九ツ時分尾之下旅宿^{（江）}差越候処、郡見廻右田罷出、諸在庄屋・名主共る取納日限延之願申出候段申出候ニ付、同道ニ而御檢者衆に差越申談、半蔵西取納方に差越^{（申カ）}、日限延之筋申談、暮時分御檢者衆旅宿に罷帰候事、

一 波見村名主伊助・野崎村名主伊助・新留村名主茂助罷出候ニ付、請取合いたし、夜入候而旅宿に罷帰候事、

一 粟代上納受取見届候上、地方檢者引取候様、先達而被仰渡候得共、其儀ニ不及、皆済書見届罷帰候様、又々被仰渡候事、

寅十一月晦日晴天

一 九ツ時分半蔵同道ニ而、御檢者衆旅宿に差越、請取合いたし候

、尤波見村名主治右衛門・野崎村名主伊助・新留村名主太郎右衛門罷出候、左候而、五^②時分半蔵同道ニ而麓之樣罷帰候事、
一來ル^①限日限延之願書相認候、西東取納方掛廻^{十年迄}・郡見廻連名ニ而候、尤前田村庄屋図師直八明朝出府之筈候事、

寅^{十二}月朔日晴天

一九ツ時分検者^{衆修}□宿に差越候處、半蔵參^二候ニ付、請取^二力

たし候、尤明日入米御届申上筈候、波見村名主太郎・野崎村名主伊平次・新留村名主権太郎罷出候、夜入候而拙者事ハ旅宿に罷帰候處、半蔵事ハ麓之樣罷帰候事、

一指宿御湯治先御用聞、先達而取得候鹿之皮、申良詰御鳥見牧金左衛門殿旅宿に差遣候様、今晚申来候ニ付、右書付^{江力}別紙相添、月番同役市来氏に取計^{十二}旨頼越候事、

寅^{十二}月三日晴天

一五ツ時分御検者衆旅宿に差越、十一月廿一日より昨日迄請取合いたし候入米御届御郡方に申上候、尤四^②時分御検者衆事ハ串良池之原詰親父梅北大右衛門殿御旅宿に被差越^候、半蔵并拙者一剋引取、拙者事ハ前田村詰取納究検者^{山上助五}郎殿に致見舞含ニ而、郡見廻岩城勇八旅宿鉄十所に立寄居候處、右助五郎殿

事、日高八郎太殿同道ニ而被參候ニ付、一剋相咄、九ツ過彼所^{罷帰候}ハツ拙者旅宿にハツ時分^{ハツ}拙者・半蔵同道ニ而權藏所に差越候而、新留村請取合いたし、夜入候而、又々致同道、麓之樣罷帰候、当村名主四郎八相動候事、

寅十二月三日晴天

一松下鉄兵衛所に用事有之、四ツ時分差越候處、留主ニ而、直ニ尾之下旅宿に差越候折、野崎村名主平兵衛勤前之由ニ而罷出候ニ付、權藏所に差越居候様申付、日帳留^二いたし候處、□右衛門に用事有之由ニ而、宇都宮蓮淨院被參、一剋相咄、九ツ過權藏所に差越候得共、請取無之由ニ而、請取合不相調候、尤夜入候而半蔵同道ニ而麓に罷帰候事、

寅十二月四日晴天

一四ツ時分日高六太郎殿所に^二目役被仰付候祝儀と差越、四ツ過罷帰、直ニ尾之下旅宿に差越候、尤八ツ時分半蔵同道ニ而、權藏所に差越、波見村請取合いたし候、名主治右衛門罷出候、夜入候而、庄屋峯崎平八事も罷出候、且御検者衆御帰之筈承置候ニ付、案内差越候處、仲左衛門罷帰、今日御帰無之段申出候、左候而、拙者事ハ五ツ時分旅宿に罷帰候事、

寅十二月五日晴雨天

一九ツ時分權藏所に差越候処、半藏事ハ參居候、尤同役市來運右衛門殿見舞とノ八ツ時分罷^(來)ニ、無間も御檢者衆申良池之原御掃有之候、然処ニ市□氏事ハ波見浦に出張有之候様月番同役大田氏^(由來候由ニ)而、七ツ時分被罷掃候ニ付、我々共事ハ新留村請取合いたし候、庄屋兄玉直十郎・名主權太郎罷出候、^(左候而)野崎村庄屋上田直次郎事、明六日出府之^(電)ニ□^(而)□^(并之)罷出候、拙者事ハ六ツ過直十郎同道ニ而^(衆)宿に罷掃、一剋相咄、五ツ半時分麓之様罷掃候而、一剋吉井氏に差越候事、

寅十二月六日晴天

一八ツ時分御檢者衆旅宿に差越候処、前田村詰御檢者川上助五郎殿・郷士年寄日高八郎太殿・半藏被參居候、尤前田村詰之衆、暮時分引取有之候、今日も野崎村名主新吉罷出候得共、毛頭請取無之段申出候、^(處)兒嶋給地証文申請方とノ昨五日都而出立いたし候段、三ヶ在共ニ届承候事、

寅十二月七日晴天

一九ツ時分權藏所に差越候処、半藏參居候、左候而、^(御檢者來カ)事ハ御親類衆御病氣之段申來候ニ付、今早朝申良池之原詰御親父

大隅農村社会経済史料 (三)

^(語説)所に被差候、明日御掃之程合ニ相見合申候間、今日致殘別候様東三ヶ在に申越候段、右郡見廻^ル承候、尤八ツ時分御檢者衆御掃有之候ニ付、波見村請取合いたし候、今晚殘別ニ而、四ツ時分迄相咄、拙者事ハ旅宿に罷掃候、尤波見村庄屋峯崎平八・名主治右衛門・野崎村名主伊助・新留村庄屋^井名主太郎右衛門ニ而候、

寅十二月八日晴天

一五ツ時分御檢者衆御旅宿に差越候処、半藏參居候、郷士年寄大田善兵衛殿一剋見舞有之候、前田村詰取納御檢者川上助五郎殿被參候、左候而、四ツ時分檢者梅北良右衛門殿御出立有之候、中戻リ之筋ニ而候、左候而、七ツ時分右川上殿事前田村に御掃有之候ニ付、直ニ新留村請取合いたし候、名主茂助相動候、拙者事ハ五ツ時分^(衆)宿に罷掃、直ニ麓に掃候、

寅十二月九日晴天

一四ツ時分權藏所に差越候処、半藏參居候、追々東三ヶ在名主共罷出候ニ付、取納催促稠敷申付候処、野崎村不埒之儀有之、名主共不殘只今御用申渡置、請取合いたし候、然処暮時分罷出候

ニ付、早々下小原御蔵に取納いたし候様、申達候処、明後十一

日限ニモ無間違不足米不殘唐仁町御蔵に為負^(込)□可申候間、其通

被仰付被下度段、願申出候ニ付、願之通申付置候、名主新助・

伊助・平兵衛ニ而候、波見村名主太郎・新留村名主甚左衛門罷

出候、尤拙者・半蔵同道ニ而四ツ時分麓に罷帰候、

寅十二月十日晴天

一和田十郎次殿先達^(命)□る伊東氏に被參居候ニ付、四ツ時分致見舞

候、尤九ツ時分日高宗次郎所に一刻立寄^(候)□而、權蔵所に差越候

処、郡見廻半蔵參居候ニ付、証文究いたし候、新留村庄屋兒玉

直十郎・名主四郎八・野崎村名主新吉・波見村名主孫太郎罷出

候、且五ツ時分旅宿に罷帰候、半蔵事矢神氏其外に差越由承候

事、

寅十二月十一日晴天

一四ツ時分權蔵所に差越候処、九ツ時分半蔵罷出候ニ付、証文究

いたし候、尤波見村庄屋峯崎平八・名主太郎・野崎村名主平兵

衛・新留村名主權太郎罷出候、左候而、今晚六ツ過旅宿に帰候

一指宿詰御鳥見頭満尾喜右衛門殿を鹿御用被仰越候得共、取納方

絶迫ニ而不得寸暇候ニ付、別^(紙)相添、月番同役大田善兵衛殿に

頼越候事、

寅十二月十二日晴天

一西取納方詰地方檢者川上助五郎殿旅宿勘助所に四ツ時分差越候

得共、波見浦之もの共申請不出道跡見分と、前田村を後田村

迄被差越候由ニ而、不掛御目候ニ付、上之藺之權蔵所に差越候

処、未半蔵事も罷出候故、旅宿に罷帰候事、

一九ツ時分權蔵所に差越候処、新留村名主林右衛門・野崎村名主

伊平次・波見村名主孫太郎罷出居候、尤八ツ過、半蔵罷出候ニ

付、三ヶ在証文究いたし候、左候而、明日は休之段申達候、

且新留村名主伝右衛門・野崎村名主平兵衛兩人、今晚五ツ時分

罷出、高山与御蔵取納^(文)□方之引詰^(文)□済候段、申出候ニ付、明後

十四日無間^(通)給地証^(文)□并下代覚書差出候様、右三^(分)□之名主共

に申達置、直ニ半蔵同道ニ而、麓之様罷帰候事、

寅十二月十三日晴天

一今日も証文究休之段、申達置候ニ付、旅宿迄も不差越候、毛

頭御用不承候事、

寅十二月十四日晴天

一四ツ時分旅宿に差越、九ツ時分權蔵所に差越候処、半蔵并西取

納方詰郡見廻参居候、尤波見村庄屋峯崎平八・名主太郎・野崎村名主平兵衛・新留村名主権太郎罷出候ニ付、証文究いたし候処、波見村之儀給地証文・下代覚書都而相揃候、左候而、今晚郡山八左衛門罷出候、且拙者事ハ五ツ過旅宿に帰、四ツ過麓之樣罷帰候事、

寅十二月十五日晴天

一五ツ過旅宿に差越、荷物本取集、九ツ時分上之蘭之權藏所に差越候処、郡見廻右田半藏参居候ニ付、証文究いたし候、今日迄給地証文・下代覚書都而相揃候得共、宮之城浮免証文未差出方無之候、新留村庄屋兒玉直十郎・名主茂助・野崎村庄屋上田直次郎・名主新吉・波見村名主孫太郎罷出候、尤今晚四ツ時分、拙者事ハ西取納檢者川上助五郎殿旅宿に差越候処、同役日高八郎太殿、郡見廻岩城勇八・用水掛小牧恕右衛門被参居候、其外西四ヶ在之名主共参居候、尤九ツ時分麓に帰候、

*「天保元年」寅十二月十六日晴雨天

一宮之城浮免証文、今朝都而被差出候ニ付、給地証文・下代覚書・作人帳取揃、今日鹿府参上郡見廻岩城勇八殿へ^(相)渡候段、右田半藏より申出候事、

一九ツ御地頭かり屋へ差越、出^米。究いたし候処、出入毛頭無之候ニ付、丸相廻候、尤高掛式刃良之内と^(鑓)、式三片致持参、取払津曲休次郎に渡之、且取払守屋求馬・与頭書役大窪与宗太参居候、七ツ時分与頭柏原伴之進出役有之候、左候而、拙者事ハ帰掛同役月番大田善兵衛殿所に立寄候、今日も地蔵院所より請誘有之候故、七ツ過右善兵衛殿同道ニ而差越候処、与頭柏原伴之進・津曲次五其外触書役参候而、四ツ時分都而引取候事、

寅十二月十八日雨天

一兒玉權之助所ニ而、今晚拾五^(書)文掛模合座有之、夜入候而、吉井宗太郎同道ニ而差越候、尤波見之高橋^(宗兵衛)名前之^(蘭)老口吉井氏・拙者・野町茂平次三人ニ而致附属掛出候、尤初座掛出分拾五^(大田)文右三人ニ而割合、拙者并茂平次方之儀ハ^(後力)合座ニ而^(大田医)医泉に相渡候、吉井氏事ハ^(後力)差遣筋^(大田医)泉に相談有之候、尤今晚取^(浦)浦之小太郎・矢野氏・矢神氏・上田直次郎ニ而候、来卯年座取入矢神善左衛門・荒平之龜太郎・浦之仲^(浦)町利八・大田善兵衛殿に相決候、来々辰年座ニ^(浦)之喜兵衛・小右衛門に相究候、支配人大田善兵衛殿・河俣龍藏殿・日高休左衛門殿・^(右カ)医泉殿、親名代拙者出会之事、

寅十二月十九日雨天

一所取除も合式日ニ而候得共、あき婚禮ニ付、支候故、出役不相叶、頼越候事、

寅十二月廿四日雨晴天

一縮方横目神宮司筑兵衛殿、昨日野町利八所に御差入ニ而、今朝致見舞候処ニ、同役日高八郎太殿被参候、外ニ段々見舞之人被参候得共略ス、

一与頭津曲^(次五歳)ニ申談、明後廿二日出府之筋相究、月番同役方

へ通天・人馬取替申出候事、

寅十二月廿一日雨晴天

一今朝月番同役大田氏の出会之段申来候ニ付、五ツ時分差越候処、拙者跡役しらへ書^(二)相相談有之候ニ付、此節拙者致出府、しら

へ書取下候上、しらへ直し差上候而可然申談候、高掛式匆良延^(後)

訴詔ニ付、煙草三斤致持参筋ニ申談候ニ付、四ツ過時分罷帰、

直ニ野町年行司に手当申越候事、

寅十二月廿二日雨曇天

一分三貫文^(鈔)

*「右三」文外二月四日致返済候^(書)

一今日鹿府出立之筈ニ而、通天野崎村下大藁門太郎其外人馬罷出候得共、朝之間天^(氣不)宜、召延候事、

一縮方^(徳)目^(神)宮司筑兵衛殿に御茶差上筈ニ而、七ツ時分向と野町利八所に差越候処、大田善兵衛殿被参届、三人列ニ而津曲仲右衛門所に立寄、右仲右衛門殿列立、拙者所に致同道候、今晚五

ツ過引取有之候事、

一益山甚五左衛門娘、座敷内出方之願書に次書相認、月番同役大田善兵衛殿方被遣候ニ付、致印形候。

寅十二月廿三日晴天

一四ツ時分月番同役大田善兵衛殿に届申出置、与頭津曲次五殿同^(道)ニ而、古江問屋へ七ツ時分致着候、尤通天^(野崎)村下大藁門太

郎召列候、尤今晚出船無^(二)、滞在いたし居候処、九ツ時分郡見

廻岩城勇^(八後)田村庄屋矢神勇右衛門鹿府方帰候事、

寅十二月^(廿四)日曇天

一今^(候故)出船無之^(書)拙^(者)事人馬式足雇入、津曲氏事^(も同断)雇入、

五ツ半時分同道いたし、垂水中ノ俣武八所に八ツ時分致着候而、

直ニ丸木船壳艘^(賃)々^(借切カ)四百文ニ而^(賃)出船いたし候処、今晚四ツ

過時分鹿府問屋^(賃)致着候、郡山八左衛門参居候事、

一分三百四拾八文

右老行、古江^中之俣迄乗下老足雇入、駄賃分と相払候、

一、三百四拾八文

右老行、古江^中之俣迄、御地頭所御用諸野菜付雇人馬老足雇入賃分と相払候、

一、八百文

外^(文) □

但与^(頭) □津曲次五殿出分

貳百文

但 通天式人出分

右老行、垂水中之俣^中鹿府迄丸木船老艘借切運賃と相払候、

一伊東柳庵^中和田十郎次殿宛之皮籠老ツ、古江問屋へ有之候ニ付拙者持越候事、

寅十二月廿五日曇雨天

一早天御取次衆え差越候処、城戸^中 □行逢、何之咄も不相調候、

御祝儀之儀^中役人方へ引^中 □上候様被仰候ニ付、直ニ役人方に

差越、相伺候処、寒中御機嫌伺并歳暮御祝儀迄今日^(申上) □候而可

然と之趣承候、尤相とんこツ三ツ・野菜手籠老ツ・書状老通役

大隅農村社会経済史料 (三)

人方に相渡候、左候而、野菜手籠老ツ・書状老通、取次衆に相

届置候而、直ニ問屋^中 □帰候、与頭津曲次五殿同道之事、

一八ツ後、津曲氏同道ニ而、御地頭所に致参上、両種先例之通相

備、寒中御機嫌伺并歳暮御祝儀申上候、尤取次衆役人迄相仕舞

直ニ罷歸候事、

一分老^(粉) / 五百文

御地頭所に

但 目錄相添、御有一折・御樽一荷と相記候、鳥目之儀杉原

紙二枚ニ而包、水引ニ而結候、

肴一折代并銘酒拾盃代と、組頭津曲次五殿中間ニ而進上、

一、六百文

御取次衆に

肴一折・銘酒^中 □盃代と、右同断、

一、三百文

肴一折代并銘酒三盃代と、右同断

一六ツ時^(分) □津曲氏同^中 □ニ而、矢神氏に差越候処ニ、新^中 □之瀬

□新^中 □衛門殿と申人之由ニ而被参居^中 □時斗相咄、津曲氏

同道ニ而、御取次衆に差越候処、□水郷士老人参居候、尤拙者

跡役しらへ御下ケ可^(被相下) □申断候処、早々しらへ替差出候ハ、

其節可相下段被仰候、左候而、益山甚五左衛門娘座敷内出方願

書差出候、五ツ過問屋へ罷帰候、且矢野氏の新屋敷迄右新右衛門殿同道候事、

御地頭様御三男御孫様御誕生^(二)付、御祝儀申上候様、尤有馬伊右衛門殿にも差越候様、五太右衛門殿を被仰候、

寅十二月廿六日曇晴天

一酒匂平右衛門所に差越考ニ而、津曲氏同道ニ而、九ツ時分石燈爐通之辺致徘徊、相尋候得共、不相知候ニ付、和田殿に差越候处、乗助様・十郎次様に掛御目相咄居候折、右平右衛門事も罷出候得共、外ニ段々^(一)不相濟候、今晚五ツ過帰候事、
一^(郡)山八左衛門事、^(寺)日出船ニ而罷帰候ニ付、書状一通月番同役方に差遣候事、

寅十二月廿七日曇晴天

一歳暮為御祝儀、津曲氏同道ニ而、^(四ツ)半時分御殿に致参上、御帳に相付、御三役川上^(五)殿・小松式部殿・嶋津丹波殿・嶋津但馬殿・^(六)刈全之介殿・諏訪甚六殿・二階堂伊豆殿・川田信濃殿・嶋津主殿殿、都合九ヶ所相廻、直^(二御也)頭所に差越、御地頭様に御三男御孫御誕生之御祝儀申上候、且有馬伊右衛門殿を鎌田五太右衛門殿^(所カ)相仕^(備)、問屋へ罷帰候处、七ツ時分ニ相成

候事、

一分巻^(七)ノ五百文

御地頭所に

但杉原紙式枚ニ而包、水引ニ而結候、尤目録^(七)儀を、御着一

折・御樽一荷と相記候、

^(御着)折代并^(銘)酒拾盃代と、与頭津曲次五殿中^(間ニ而進上)

一々六百文

鎌田五太右衛門殿に

肴一折代并銘酒五盃代とノ右同断、

一々六百文

有馬伊右衛門殿に

右同断、

一々三百文

役人衆に

肴一折代并銘酒三盃代とノ右同断、

一七ツ過渡辺金太郎能出、金子借用之願申出候得共、拙者断申入候处、津曲氏を式分二朱被かし入、暮時分迄相咄候、尤金子之儀を宇都宮休藏殿を被差遣候煙草代とノ矢野氏を被差遣候金子ニ而候事、

寅十二月廿八日曇晴天

一四ツ半時分、御^(所)に差越、黒鷄尾并送状巻通差出候得^(共)、羽不宜、上納ニ不相成、直ニ御鳥部屋へ差越、取次衆を被遣候

御鳥掛御受之書付老通差出候処、拙者名前に致印形候様被仰候
ニ付、致印形候、尤御用部屋（被_レ）未何分無□_{（之_レ）}ニ付、早々相下り
可□_{（被_レ）}申上旨、取次衆に申置候様、被仰候故、直ニ用達詰所に差
越右之趣申上、九ツ半時分問屋へ罷帰候事、
一益山甚五左衛門娘座敷内出方、願通張紙を以、信濃殿（被_レ）被仰付
候事、

寅十二月廿九日曇晴天

一津曲氏同道ニ而、五ツ時分酒匂平右衛門所に差越候而、四ツ半
時分問屋ニ罷帰候事、

一書状老通、益山甚五左衛門娘座敷内出方之御免□_{（書_レ物）}□□□、波見
浦船問屋便（月番）衆に差遣候事、

寅十二月晦日曇晴天

一九ツ時分風呂屋に一剋差越□_{（候_レ）}、富山村之もの老人罷出、今日直
ニ罷帰□_{（候_レニ付）}、問屋米一件之書付老通、月番同役衆に遣候事、

〔一九六八・七・四写畢〕